

令和4年度（令和3年度対象）
南あわじ市の教育 点検・評価
報 告 書



令和4年8月

南 あ わ じ 市 教 育 委 員 会
南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会

も く じ

はじめに	1
点検・評価の概要	2
体系表	3
点検・評価結果	5
基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進	6
(1) 「確かな学力」の育成	7
(2) 「豊かな心」の育成	11
(3) 「健やかな体」の育成	14
(4) 特別支援教育の推進	18
(5) キャリア教育の推進	20
(6) 幼児期における教育の充実	23
(7) 南あわじ市の防災教育の推進	27
基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築	30
(1) 教職員の資質・能力の向上	31
(2) 学校の組織力の強化	33
(3) 安全・安心な教育環境	35
(4) 家庭と地域による学校と連携した教育の推進	37
(5) 人権文化をすすめるまちづくり	41
基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生	46
(1) 主体的に生きるための学びと場の充実	47
(2) 伝統文化（芸術）の伝承と発展	53
(3) スポーツに親しむ環境づくり	57
評価委員の意見	60

は じ め に

近年、教育に対するニーズの変化や、課題が多様化・高度化・複雑化する中で、教育が果たすべき役割が大きく変化しています。

令和元年末に世界で初めて確認された新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界を巻き込んでパンデミックとなり、現在も日々の行動や生活に大きな影響を及ぼしています。

有効で安全とされるワクチンが開発され、日本では第4回目の接種が進む中で、現在も新規感染者の減少と増加を繰り返しております。今後も感染防止対策を講じつつ社会経済活動の活性化に向けて取り組んでいかなければなりません。

本市及び本組合の教育行政においては、令和3年度は、感染防止対策を徹底しながら、学校教育活動及び社会教育活動を実施してまいりました。コロナ禍前の活動の水準までには至っておりませんが、すべてを元の状態に戻すことを目標にするのではなく、変わりつつある感染状況を見据えながら昨年度の経験を活かし、従来の事業のあり方や進め方に課題を見出して改善や効率化を図る等、柔軟に対応を行ってまいりました。

教育委員会においては、令和2年度から5か年計画として「第3期南あわじ市教育振興基本計画」を策定し、令和3年度は、本計画に基づき「南あわじ市の教育方針」を定め、「学ぶ楽しさ日本一」をテーマに、子ども達が「学ぶ楽しさ」をあふれるほど感じたり、追及できる学校、家庭、地域を推進してまいりました。

「学ぶ楽しさ日本一」を実現する取組として、「ほめること」を大切にすることで「自己肯定感」を高めることを目指しております。

さらに、「読解力」を核にしながら、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力、創造力、やり抜く力など様々な資質や能力を向上させ、「なりたい自分になれる」ように、サブテーマである「夢と志を持ち、ふるさと南あわじの未来を創る人づくり」を進めるため、それぞれ具体的な諸事業を推進してまいりました。

これらの諸事業を適切に執行するには、各事業が効率的に実施されているか、有効的に行われているかなど、随時、点検評価をしていくことが必要であると考えます。加えて、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条には、教育委員会行政事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することと規定されております。

こうしたことから、教育委員会では、課題や取組の方向性を明らかにし、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、市民のみなさんへ説明責任を果たすため、「南あわじ市の教育方針」に基づき、令和3年度に実施した主な事業について点検評価を行い、その結果を報告書にまとめました。

令和3年度の点検・評価にあたっては、評価内容の客観性を確保するため、また、コロナ禍における事業の実施等に対する成果と課題を明らかにするため、学識経験者のみなさまのご意見をいただいております。今後の教育行政に反映させていきたいと考えております。

今後も、教育委員会では、よりより教育の実現に向けて努力してまいりたいと存じますので、みなさまの一層のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

南 あ わ じ 市 教 育 委 員 会

南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会

点検・評価の概要

点検・評価の対象

「第3期南あわじ市教育振興基本計画（令和2年度～令和6年度）」の基本理念に基づいて令和3年度に教育委員会が実施した事務事業のうち、83の主な取組を点検・評価の対象としました。（対象事業一覧は次のページに掲載）

点検・評価の方法

「第3次南あわじ市教育振興基本計画（令和2年度～令和6年度）」及び「令和3年度南あわじ市の教育方針」を基に、教育委員会で自己点検評価資料をまとめました。

教育に関する事務の点検及び評価委員会を開催し、学識経験者3名の方を評価委員としてお招きし、自己点検評価資料等に対してご意見、ご助言をいただきました。

委員会の内容を取りまとめ、最後に「評価委員の意見」を掲載した報告書を作成しました。

報告書の公表

報告書は、市議会及び組合議会へ提出すると共に、関係機関及び市内小中学校への配付、ホームページへの掲載を行いました。

第3期南あわじ市教育振興基本計画(令和2年度～令和6年度) めざす教育の姿 体系表

学ぶ楽しさ日本一

～ 夢と志を持ち、ふるさと南あわじの未来を創る人づくり ～

- 基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進
基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築
基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向

重点目標

主な取組

(1) 「確かな学力」の育成	ア 学力向上の推進	① 「読解力」の向上 ② 基礎基本の徹底 ③ コアカリキュラム ④ 読書習慣づくり	● ★ ●
	イ 国際理解を深める教育の推進	① ALT・STを活用した外国語の授業 ② 「COOL AWAJI」の活用	
	ウ 情報活用能力の育成	① プログラミング教育	
(2) 「豊かな心」の育成	ア 道徳教育・人権教育の推進	① 道徳教育と人権教育研究プロジェクト ② 兵庫版道徳教育副読本の活用	
	イ ふるさと意識を醸成する教育の推進	① 副読本「ふるさと淡路島」「ふるさと兵庫、魅力発見！」の活用	
	ウ 兵庫型「体験教育」の推進	① 環境体験学習 ② 自然学校	
(3) 「健やかな体」の育成	ア 体力・運動能力向上の推進	① 運動能力テスト ② 体力アップサポート事業	
	イ 食育の推進	① 食育推進事業 ② 食育チャレンジ	
	ウ 健康教育・安全教育の推進	① 避難訓練 ② 着衣水泳	
(4) 特別支援教育の推進	ア 連続性のある多様な学びの充実(縦の連携)	① 個別的教育支援計画 ② 授業のユニバーサルデザイン化 ③ 中高連携シートの活用	
	イ 一貫性のある支援体制の構築(横の連携)	① 関係機関との連携 ② あわじ教育相談	
(5) 教キャリアの推進	ア 体系的・系統的なキャリア教育の推進	① キャリアノート等の活用 ② 幼こ保・小・中・高の連携 ③ 小中一貫教育	
	イ 社会に触れる機会の充実	① トライやる・ウィーク ② 夢プロジェクト	●
(6) る幼児教育期におお受け	ア 幼児期における教育の質の向上	① 遊びから学びに繋がる体験活動 ② 本との出会いの場の提供 ③ 職員の研修	
	イ 幼児期と児童期の円滑な接続	① 幼こ保小連絡協議会 ② 交流活動の充実 ③ 育児力の強化	
(7) の南防あわじ推教育市	ア 防災教育の充実	① 防災ジュニアリーダー養成事業 ② 防災出前授業 ③ 自然学校「防災学習」	★
	イ 学校防災体制の充実	① 学校防災マニュアルの作成 ② 避難所運営部会	

基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築

基本的方向

重点目標

主な取組

(1) 質・職員
能力の
向上の資

ア 研修体制の充実

- ① 基本的な資質・能力向上のための研修
- ② 南あわじサテライト講座
- ③ スクールチャレンジ事業の活用 ★

イ 教職員の働き方改革の推進

- ① 教育用コンピュータ管理
- ② 教職員の勤務の適正化

(2) 力の
学校の
強化組
織

ア 管理職の育成

- ① 南あわじサテライト講座「学校経営講座」

イ いじめ等問題行動・不登校への対応

- ① いじめ防止 ●
- ② 不登校児童生徒への支援の充実
- ③ 市小・中・高生徒指導連絡協議会

(3) 心 安
全 全
環 教・安
境 育 安

ア 施設・設備の改修

- ① 大規模(長寿命化)改造工事
- ② 校舎等営繕工事

イ ICT等の設備

- ① 統合型校務支援システム
- ② GIGAスクール構想 ●

(4) た 家
教 庭
育 校
の と
推 地
進 域
携 に
し よ

ア 家庭の教育力の向上

- ① 学力向上リーフレットの配布
- ② 家庭学習の手引き

イ 地域の教育力の向上

- ① 放課後児童健全育成事業
- ② 放課後子ども教室事業
- ③ サマースクール事業
- ④ 地域学校協働連携事業
- ⑤ 青少年育成センター事業

(5) ち 人
ず 権
す 権
め 文
く り
る 化
ま を

ア 人権教育の推進

- ① 人権教育基本方針の策定 ●
- ② 人権学習会、研修会の開催
- ③ 市人権教育研究協議会との連携

イ 人権を身近な課題とするための
啓発活動

- ① 啓発冊子「気づきタウン」の活用
- ② 人権啓発フェスティバル等の開催
- ③ インターネットモニタリング事業

基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

基本的方向

重点目標

主な取組

(1) た 主
め 体
の 的
学 の
び 学
と び
実 生
場 活
る

ア 学びの充実

- ① アフタースクール事業 ★
- ② 夢プロジェクト ●
- ③ 淡路三原高等学校魅力づくり支援事業

イ 社会教育施設の充実

- ① 社会教育施設の整備
- ② 展覧会事業や関連事業の開催
- ③ 資料の保存、管理
- ④ 図書館資料の充実

(2) の 伝
伝 統
承 文
と 化
発 (芸
展 術)

ア 体験を通して学ぶ伝統文化(芸術)の
伝承と発展

- ① 子ども伝統芸能発表会
- ② 淡路人形浄瑠璃の保存伝承と振興
- ③ 南あわじ音楽祭

イ 文化財の保存と活用

- ① 歴史文化遺産の保存、整備と活用
- ② 淡路島古代フェスティバルの開催
- ③ 松帆銅鐸の調査研究、活用 ★

(3) ス
親 ポ
し ー
む ツ
づ 活
く 動
環 環
境 境
に 境

ア 生涯スポーツ等の推進

- ① 市民スポーツの振興
- ② 体育協会大会の開催

イ 社会体育施設・設備の環境整備

- ① 温水プール運営事業
- ② スポーツ施設の適正管理
- ③ 学校施設の開放事業

点検・評価結果

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

対象事業 39項目

基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築

対象事業 26項目

基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

対象事業 18項目

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向1 「確かな学力」の育成

基本的方向2 「豊かな心」の育成

基本的方向3 「健やかな体」の育成

基本的方向4 特別支援教育の推進

基本的方向5 キャリア教育の推進

基本的方向6 幼児期における教育の充実

基本的方向7 南あわじ市の防災教育の推進

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向1

「確かな学力」の育成

【重点目標】

【主な取組】

ア 学力向上の推進

- ① 「読解力」の向上
- ② 基礎基本の徹底
- ③ コアカリキュラム
- ④ 読書習慣づくり



イ 国際理解を深める教育の推進

- ① ALT・STを活用した外国語の授業
- ② 「COOL AWAJ」の活用

ウ 情報活用能力の育成

- ① プログラミング教育

「読解力」の向上

担当課

学校教育課

事業内容・実施状況等

新学習指導要領を基に、教科書を読み解いたり、言葉の意味の違いに気づいたり、図・グラフ等から関係性を読み解くことで「読解力」の向上に繋げる。また、読書活動と連携し「読解力」の基礎となる読書の習慣化を図る。

成果・課題 及び 今後の対応等

【成果】 児童生徒の、思考力・判断力・表現力等を把握し、「ことばの力(言語に関する能力)」の育成を図る学習活動の在り方について各校において研究を進めることができた。その上で、各教科等では、「記録」「要約」「説明」「論述」等の言語活動を充実させた授業改善が図られてきている。全国学力学習状況調査の結果を踏まえた課題克服研究として、国語科で取り組む学校もあった。また、百科事典を活用した「ことばの力」の育成にも取り組み、児童生徒自身が文章を要約したり、考えを説明する力がついてきている。

【課題】 教師自身が「読解力」を理解し、育みたい力を明らかにしながら授業を組み立てることが重要である。そのためには、目標に則した評価方法を明確にし、指導方法の工夫改善に取り組むなど、指導と評価の一体化を図る必要がある。

基礎基本の徹底

担当課

学校教育課

事業内容・実施状況等

学習の基礎基本の向上をめざし、授業外の学習タイムを設け各校で取り組んでいる。がんばり学びタイムでは、小中学校14校において、地域人材を活用し、授業中・放課後の学力向上方策に取り組んでいる。

成果・課題 及び 今後の対応等

【成果】 授業外の学習タイムは、市内すべての小中学校で実施している。各校とも、児童生徒の実態に合わせて対象学年や日数を決定し実施した。がんばり学びタイムでは、授業中の学習支援と放課後の補充学習を行っており、多くの学校で支援体制の充実が図れた。特に、放課後は、基礎学力定着を目指して漢字や計算等の練習を中心に行うだけでなく、発展的な問題を用意し、個々の到達度に応じて個別指導を行うなど方法や場の工夫をするようになってきている。

【課題】 個々のつまづきに応じた個別指導を行うため、学習教材の準備に時間がかかる。また、児童生徒理解のために担任と指導員の打ち合わせ時間を確保するためにも、学校の実態に合わせた運営上の工夫が必要である。

コアカリキュラム

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	南あわじ市コアカリキュラムは、淡路人形浄瑠璃を題材に、育成すべき資質・能力の明確化と小中学校9年間の達成レベルやルーブリック評価を設定した授業設計（各学年10時間以内）となっている。設計には2年をかけ、実施検証が3年目となる。 ① 全校において小1から中3までカリキュラムを実施し、振り返りシートと成果物を集めた。 ② 検証（小3、小5、中1、中3）として湊小学校・辰美小学校・西淡中学校で公開授業を行った。 ③ 各校の実施状況やiPadの活用状況を取りまとめることができた。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 全校から教師の振り返りシートを集め分析したところ、コアカリキュラム担当以外の若手教師に育成すべき資質向上についての記述が見られるようになった。これはコアカリキュラムの本質が伝わり、広まってきていると言える。ブラッシュアップ研修では授業の検証をする中で、ICTの活用を組み入れたカリキュラム改訂を実施することができた。また振り返りシートをもとに市内全小中学校の各学年のカリキュラム分析と各校における身につけさせたい資質・能力の定着度を分析することができた。 【課題】 ルーブリック評価において、めざすべき児童生徒の姿の具体的なイメージが共有しにくいので評価の難しさがあった。コアカリキュラムは、9年間の学習の積み上げなので、毎年児童生徒の実情に合わせて、少しずつカリキュラムや評価等の微調整が必要になってくる。



基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

読書習慣づくり

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	各学校において、「朝の読書」「すき間読書」「読み聞かせ」「読書カードの活用」等、工夫した取組を行った。また、すぐに本を手にとれるよう学級文庫を充実させ、学校図書館に児童生徒の興味関心が高い新刊を意識的に入れる等、環境整備を図った。 また、学校司書を2人配置した。(松帆小学校、志知小学校、福良小学校、西淡中学校、南淡中学校)
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 スクールチャレンジ事業等により、学級文庫や学校図書館に新刊を購入する学校もあり、環境整備を前進させることができた。一例として、読みたい本や好きな本を手提げ袋に入れて、自分の机の横にかけ、すぐに手に取れるようにして「読書する楽しさ」を感じさせる工夫が見られた。 また、学校司書配置校を増やし、司書が担任と連携することにより効果的な取組が進んだ。 【課題】 各学校での蔵書の充実に向けて新刊を適切に選考する必要がある。学校内の児童生徒たちの動線を考えると足を運びにくい場所に学校図書館が位置している学校もあり、児童生徒たちが学校図書館へ行きたくなるような工夫や意欲的に読書していく習慣を作るために、「読書する楽しさ」を感じさせる環境整備が必要である。

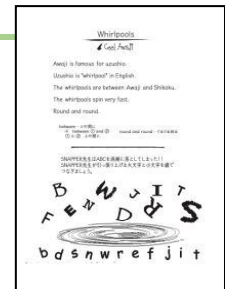
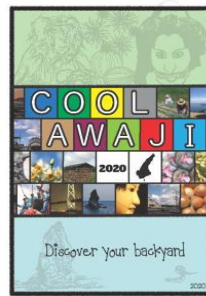


ALT・STを活用した外国語の授業

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	小学校において、担任は授業の全体像を把握して授業を進め、外国語指導助手(ALT)はネイティブスピーカーの英語を話すモデルとして、外国語活動支援員(ST)は授業計画への助言や授業中の支援者として、外国語の授業をよりスムーズに進めている。 中学校においてもALTを配置し、外国語でコミュニケーションを図る機会を設けた。幼稚園、こども園、保育所、小学校低学年においても外国語に慣れ親しむことを目的として、ALTを派遣し、ゲームや歌、遊び等を主体とした外国語を用いた活動を行った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 小学校において、担任とALT・STが入って行う3人体制の外国語活動の授業が定着してきた。苦手意識がある児童に対しては、STが関わることできめ細やかな支援が可能となり、意欲を引き出すことができるようになってきている。また、担当者だけではなくALTとSTも授業研究等に参加し、授業モデル案作りや教材作りに取り組んだ。特にSTとALTの導入部分の発音指導や文字指導は効果を上げている。STは、英語の指導経験の浅い教員の支えとなっている。中学校においてもALTのネイティブスピーカーの英語に触れることにより、外国語でのコミュニケーションに意欲的に取り組むことができた。 【課題】 令和2年度より小学校で外国語活動及び外国語科が完全に実施された。今後は、デジタル教科書を使った授業展開の工夫やALT・STを効果的に活用した指導計画、方法の研究を進めていく必要がある。

「COOL AWAJI」の活用

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	ALTとSTが作成した淡路島の名所や特産物を英語で紹介する外国語活動の副読本(テキスト)と動画を授業等で活用し、英語力の向上を図る。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 各校にテキストを配り、動画の視聴を勧めた。南あわじ市のホームページに動画をアップし、テキストはダウンロードできるようにして、家庭学習にも活用することができた。またYouTubeにも動画をアップし、再生回数を見てみると、『モンキーセンター』は約7400回の視聴があった。動画については1つ1つの動画が非常に短くまとめられていて、テキストも使いやすいものになっている。 【課題】 基本的に内容は淡路島の紹介である。小学校高学年や中学生は視聴だけではなく、実際に英文を記憶したり、話してみたり、グループで役を決めて寸劇をしてみたりとアウトプットにつながるような活用方法を考えていく必要がある。



プログラミング教育

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	令和元年度に作成した南あわじ市全体計画をもとに、令和2年度から全小学校で、令和3年度からは全中学校でプログラミング教育を実施している。またプログラミング的思考や情報活用能力等を系統的に育成していくために、小学校、中学校における全体指導計画を作成した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 小学校ではすでに4人に1台のプログラミング教材を導入し、引き続きモデル校となっている松帆小学校では、県の動画サイト「スタートパック」を活用して積極的な取組を行った。中学校においては1人1台のプログラミング教材を新たに導入し、担当者による年間指導計画や評価、ワークシート、授業の進め方等協議、研修を進め、実施することができた。 【課題】 授業の進め方や評価、発展的な問題へのチャレンジ、また様々なハード面のトラブル解決も含め、各校の取組の状況を年間を通して、いつでも共有できる体制を整え、教師の資質向上を市内全体で図る必要がある。

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向2

「豊かな心」の育成

【重点目標】

ア 道徳教育・人権教育の推進

【主な取組】

- ① 道徳教育と人権教育研究プロジェクト
- ② 兵庫版道徳教育副読本の活用

イ ふるさと意識を醸成する教育の推進

- ① 副読本「ふるさと淡路島」
「ふるさと兵庫、魅力発見！」の活用

ウ 兵庫型「体験教育」の推進

- ① 環境体験学習
- ② 自然学校

道徳教育と人権教育研究プロジェクト

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	小中学校9年間で共通テーマの人権教育教材を作成し、人権指導計画の検証・改善と充実を図るために、南あわじ市人権教育研究協議会と連携しながら人権教育授業研究会を実施した。人権教育授業研究会での学びを通して、教職員自身の人権意識の高揚や指導力の向上を図った。 また、令和3年度は教職員の人権教育意識調査を実施し検証した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 授業研究会について、小学校1、2年生は北阿万小学校で、小学校3、4年生は松帆小学校で、小学校5、6年生は八木小学校で、中学校1年生から3年生は沼島中学校で実施した。コロナ禍での実施となり、参加者の規模は縮小したが、教材研究や指導案検討は時間をかけて充実したものとなった。小学校では、学年ごとの課題にすべて取り組むことができた。また、中学校では、令和2年度に引き続いて1年生で「LGBTQ」のテーマに取り組むことができ、総合単元指導計画を組んで集中的に学習を進めることができた。 【課題】 多様な性や新型コロナウイルス感染症に起因する人権侵害、スマートフォンなどによるインターネット上における人権侵害などの新たな人権課題の解決に向け、指導計画の検証や新しい教材開発、教職員自身の人権意識のさらなる向上が必要である。「道徳教育と人権教育研究プロジェクト」のブラッシュアップを継続しながら、教育活動を展開していく必要がある。

兵庫県版道徳教育副読本の活用

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	地域教材を盛り込んだ兵庫版道徳教育副読本を活用し、児童生徒が身近で親しみを感じ、「考え、議論する道徳」の授業づくりへの取組を進めた。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 全小中学校において、道徳の授業だけではなく、総合的な学習の時間やキャリア教育、ふるさと学習など学校教育全体で副読本を活用することができた。地域で活躍した偉人の話について考えることで議論が深まる授業が展開された。日々の授業だけではなく、家庭に持ち帰り、家族で読み合うなど、積極的に活用することができた。 【課題】 「兵庫版道徳教育副読本」を活用し、教材分析や指導方法の工夫等、さらなる効果的な活用を継続して研究していく必要がある。

副読本「ふるさと淡路島」「ふるさと兵庫、魅力発見！」の活用

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	淡路ふるさと学習副読本「ふるさと淡路島」、あわじ環境未来島副読本「みらい」、「ふるさと兵庫魅力発見！」を活用して、ふるさと意識を醸成し、系統的なふるさと学習を学校教育全体で取り組んだ。 小学3年生用「キッズ南あわじ」改訂準備に社会科担当教員が取り組んでいる。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 淡路ふるさと学習副読本は、児童生徒自身が、社会科や理科、総合的な学習の時間等で、淡路島の地理や歴史・文化等の調べ学習等に活用できた。また、自然学校や環境体験の前後に副読本を使って学習することで、知識と体験が結びつき、地域の良さやすばらしさを児童生徒が体感することができた。初任者研修では、副読本「ふるさと兵庫魅力発見！」を活用し、ユダヤ人を救出した人物「樋口季一郎」の功績について学ぶことができた。 【課題】 自分たちのふるさとである淡路島について学習する中で、ふるさと意識を醸成し、地域への愛着をどのように育んでいくかが課題である。まずは学校が地域との交流の窓口となり、地域の様々な人との触れ合いの中で、ふるさとの現状や課題を知り、解決方法を主体的に考えようとする子ども達の育成をめざしていくことが重要である。



環境体験学習

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	小学校3年生では、どの学校でも校外での環境体験学習を3回以上実施している。校区の自然環境に触れながら、ふるさと意識を持ち、自然に対する畏敬の念や命のつながりの大切さを学ぶ取組を進める。 具体的には近くの山や川、池に行き、生物の観察を行ったり、田植え、稲刈りの実習をした。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 各校区における様々な自然環境に触れながら、地域住民や事業所の協力を得て、多くの体験活動を行うことができた。ふるさとの良さをあらためて確認することができ、自然に対する畏敬の念をはじめ、命のつながりや大切さを学ぶことができた。 【課題】 活動実施後のアンケート等を活用して、その後の児童の生活や学習にどう生かされたかを検証し、指導の改善に努めることが重要である。また地域の自然環境を活かした効果的な活動プランの作成が必要である。



自然学校

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	小学校5年生では、4泊5日の宿泊体験や多様なプログラムを通して、協調性・社会性やコミュニケーション能力を身につける。令和3年度はコロナ禍のため各学校の実情に応じ、それぞれ5日間実施した。淡路青少年交流の家にてカッター研修、南淡B&G海洋センターにてカヌーなどの海洋スポーツを体験した学校もあった。また南あわじ市では、各小学校の防災に関する体験プログラムを実施し、防災意識の高揚や命の大切さの学習を深めている。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 多様なプログラムを通して自然を体感するとともに、集団生活の中で協調性や社会性、コミュニケーション能力を身につけている。また、校区内の防災施設を確認する防災ウォークラリーや災害時を想定した野外炊飯等防災学習を実施している学校もあり、体験活動を通して防災意識を高め、命のつながりを考えるきっかけとなった。 【課題】 活動実施後のアンケート等を活用し、その後の児童の生活や学習にどう生かされたか検証し、事前事後指導を含めた指導の改善に努めていきたい。またコロナ禍での実施を踏まえ、様々な状況を想定した効果的な活動プランの作成や事前準備についての見直しが必要である。



基本的方向3

「健やかな体」の育成

【重点目標】

【主な取組】

ア 体力・運動能力向上の推進

- ① 運動能力テスト
- ② 体力アップサポート事業

イ 食育の推進

- ① 食育推進事業
- ② 食育チャレンジ

ウ 健康教育・安全教育の推進

- ① 避難訓練
- ② 着衣水泳

運動能力テスト

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの測定項目である「握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ」を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 令和2年度の調査が中止となったため、2年ぶりの実施となった。児童生徒にとっては自身の体力や運動能力の状況を把握できる良い機会となり、教職員にとっては児童生徒の現状を理解した上で発達段階に応じた授業を計画・実施することができた。 【課題】 調査結果をもとに、児童生徒が自身の状況を把握するだけにとどまらず、自身の状況から課題を見つけ、主体的に取り組み、運動能力向上につなげていく必要がある。また教職員は発達段階に応じた授業を実施するとともに、そのような取組ができるよう授業内容を工夫する必要がある。

体力アップサポート事業

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	「体力アップひょうご」サポート事業の一環として、市内中学校の保健体育科教員を校区の小学校に派遣し、年間3回以上の体育授業を行い、体力向上の取組を進めた。 倭文中学校教員を倭文小学校に、西淡中学校教員を松帆小学校に、三原中学校教員を市小学校に派遣し実施した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 倭文小学校では5・6年生が陸上運動（短距離走）、3～6年生が水泳、1・2年生が器械運動の授業、市小学校では5・6年生が陸上競技、6年生が器械運動の授業、松帆小学校では1・2年生が水泳（水遊び）、4・5年生がゴール型のボール運動の授業を実施した。専門的な内容が学齢に合わせてわかりやすく行われ、児童も意欲的に取り組むことができた。 【課題】 一時的な取組になるのではなく、日々の授業の実践や各学校での日常的な運動習慣づくり、そして児童の体力アップにつなげていく必要がある。また、小中の接続を意識しながら、系統的な体育のカリキュラムづくりを検討していくことも必要である。



食育推進事業

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	学校教育全体で食育を実践している。「弁当の日」、「一年生保護者給食試食会」、「親子栄養教室」、「食育だよりの発行」等各校で特色のある取組を行っている。 和食・地産地消・食のマナーなど学校給食を活用して食育に取り組むとともに、学校給食に地場食材を活用することで生産者の思いに触れ、ふるさとの味と食文化を継承していく。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 教科や特別活動等と関連づけながら学校教育全体で食育を行っている。農業体験で育てた野菜で料理を作ったり、食生活改善推進員協議会（いずみ会）と連携して地場産物を活用した料理作り等に取り組んだ。 学校給食地場食材利用拡大推進事業では、9月はサンちゃんカレー、11月は灘産みかん、1月には淡路島3市合同献立でブロッコリーなど、2月には市内産イカを学校給食で提供することができた。また水産振興課の事業により、6月～1月にかけて、ハモやサワラなど毎月異なる魚を学校給食に提供することができ、どれも大好評であった。 【課題】 家庭において、和食や伝統料理の継承が難しくなっている。手軽に食べ物が手に入る生活環境の中で、児童生徒だけではなく、家庭、地域に対しても、食に関する情報や淡路島の郷土料理を紹介、提供していくことが重要である。 今後も学校給食において地場食材利用拡大を図りながら、生産者の思いに触れ、ふるさとの食材と食文化を継承することで、地域と学校との連携を深め、食育についてともに考える取組がさらに必要である。



食育チャレンジ

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	「健康南あわじ21」を指針として、市内小学校(主に2年生)を対象に、「早寝、早起き、朝ごはん、朝トイレ」の生活リズムを整える2週間のチャレンジ事業を継続することにより、リズムを整え、心も体も元気に毎日過ごす意識の育成を図る。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 小学校15校全校で、「早寝早起き朝ごはん朝トイレアンケート」を実施することができた。2年生に関しては2週間のチャレンジの事前事後にアンケートを実施し、比較・分析の結果、ほとんどの項目で改善がみられた。改善の多かった項目は「早寝 夜は9時まで、ねていますか」の65.3%から77.5%へ、「テレビを消してごはんを食べていますか」の55.6%から75.4%へ、「すききらいなく食べていますか」の80.0%から88.9%へ増加している。また、6年生は10校で朝ごはん献立アンケートに答え、その分析結果を健康課栄養士よりコメントし、現状の把握、改善に役立てることができた。ほかに、3年生から6年生は、2年時に食育チャレンジを実施した児童が、毎年同じアンケートに回答し、生活の振り返りができた。 【課題】 同じ児童の2年生時と現在の学年時点でのアンケート結果とを比較すると、「早寝」をすると答える児童の割合は、学年が上がるとともに減少する傾向がみられた。「朝食を食べている」割合は6年生でも96.5%と高い結果になったが、同じ集団の2年生当時のアンケート結果は98.8%であり、一部に朝食の欠食がみられるようになっていた。6年生の朝ごはん献立アンケートの結果は、3つの食品群からバランスよく食べられている割合は52.2%であり、約半数にとどまった。 今後も、「早寝、早起き、朝ごはん、朝トイレ」の生活リズムやバランスの取れた食事について、2週間のチャレンジ事業や、アンケート回答を通じて、振り返りの機会をもてるよう、支援していく必要がある。

避難訓練

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	地震や津波、火災等の状況に応じた避難訓練、抜き打ちや様々な時間帯での避難訓練、幼稚園、こども園、保育所(園)との連携した合同避難訓練を実施し、想定外の自然災害等に生き抜く力の育成を図る。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 各校ではコロナ禍での避難を意識した避難訓練が実施された。具体的には児童生徒間の距離をしっかりとる、手指消毒の徹底、場所によっては温度調整や換気の徹底、非常食は各自のものを食べる、食事中の会話に留意等である。実施の日時を知らせずに抜き打ちで行った避難訓練では、しゃべらず落ち着いた行動がとれていた。避難訓練後には訓練の反省点や気づいた点を防災マニュアルに活かすようにしている。 【課題】 様々な時間帯の訓練は実施しにくい、災害はいつ起こるかわからないことから時間を見つけて実施していくべきである。コロナ禍での避難を意識した避難訓練は、感染防止対策の徹底、避難場所の拡大、避難にかかる時間等課題は山積している。また教職員の行動を詳細に確認する意味で、教職員だけの訓練も実施していく必要がある。



基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

着衣水泳

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	各小学校で着衣水泳を行い、水難事故にあった際の考え方や着衣の重さによる動きにくさを体験し、いざという時にあわてず落ち着いた行動がとれるようにしていく。
成果・課題 及び 今後の対応等	【成果】 令和3年度はコロナ禍であったが学校の実状に合わせてプール水泳を実施することができた。着衣水泳については十分な実技の実施ができない学校もあったが、資料や動画をもとに万が一に備えて、実際に着衣水泳をする際に、衣服と体の間に空気をためる等着衣水泳のポイントについて学習した学校もある。これにより、体力を温存し、身体を保温しながら、長く浮いたり泳いだりすることの大切さに気づくことができた。 【課題】 実際にはプールのように何も浮いていない状態ではなく、物であふれ、おだやかではなく、波や流れがあるかもしれない。ビート板を障害物に見立てて浮かせたり、集団でプール内を歩いて流れをつくったりするなど、もっと実際の水難事故や津波災害を想定した実技や学習が必要になってくる。



基本的方向4

特別支援教育の推進

【重点目標】

【主な取組】

ア 連続性のある多様な学びの充実
(縦の連携)

- ① 個別の教育支援計画
- ② 授業のユニバーサルデザイン化
- ③ 中高連携シートの活用

イ 一貫性のある支援体制の構築
(横の連携)

- ① 関係機関との連携
- ② あわじ教育相談

個別の教育支援計画

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	個別の教育支援計画は、特別支援教育コーディネータが中心となって作成し、本人・保護者と合意した合理的配慮及び福祉や医療等の関係機関の情報を反映した。また、学校全体で支援の役割を分担したり、見直したりするなど一貫性のある支援のために活用した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 市で統一した様式を一部改訂し、その様式を用いて各小中学校で個別の教育支援計画を作成することができた。3年間の目標(長期目標)や1年間の目標(中期目標)、1年ごとの支援内容と課題、評価が記入できるようになっており、3年先を見据えた系統的な計画を立てることができた。また、学校間の引継ぎについて、本人・保護者の同意を得たうえで、切れ目のない支援体制の充実を図った。 【課題】 学期ごとに、個別の教育支援計画を保護者と確認したり、校内支援委員会で検討したりすることで、より適切で一貫性のある支援を学校全体で組織的に行う必要がある。また、学校間の引継ぎについて、将来を見据えた十分な説明と話し合いのうえで、本人・保護者の同意を確認する必要がある。

授業のユニバーサルデザイン化

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	すべての学校において、ユニバーサルデザインに配慮した多面的な方法を取り入れた授業づくりをめざす。すべての中学校教職員に対して、特別支援教育に関する基礎知識の習得と指導力向上を図る研修を行った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 各校において、兵庫県教育委員会が作成した講義動画等を活用し、ユニバーサルデザインに配慮した授業づくりに向けての研修を実施した。iPadのアクセシビリティという機能を活用して漢字にふりがなをふったり、文章を音声で読み上げたり、文字を拡大したりするなど、ICT機器を活用した支援が増えてきている。教室掲示の工夫や教材の構造化を図った例も見られた。 【課題】 ユニバーサルデザインに配慮した多面的な方法を取り入れた授業づくりは、まだ不十分である。iPadのアクセシビリティの他、授業のユニバーサルデザイン化に有効な方法の研究が必要である。

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

中高連携シートの活用

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	中学校・高等学校連携シートを保護者の同意のもとに作成し、本人の発達の特性、得意不得意、学習の状況、配慮事項等について、中学校から進学する高等学校へ引き継ぐことにより支援の継続を図った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 令和2年度に改訂された中高連携シートの説明チラシを令和3年度も引き続き活用し、担任や特別支援教育コーディネーターから丁寧な説明をすることで、本人・保護者の同意を得ることができた。連携シートを活用することで、進学した高等学校において、4月当初から本人の特性等を理解してもらえ、スムーズな支援の継続を図ることができた。 【課題】 中高連携シートを高等学校へ引き継ぐ際には、口頭での情報交換も行い、連携を充実したものにする必要がある。また、引き継いだ後も、必要に応じて中学校と高等学校が連絡を取り合い、情報交換しながら生徒本人の支援を継続していく必要がある。

関係機関との連携

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	サポートファイルに、本人・保護者の願いや学校園の個別の教育支援計画、各関係機関、検査結果、支援方法等を綴り、そのサポートファイルに関係機関との連携に活用した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 幼こ保と小学校の引継ぎをスムーズにするために、サポートファイルについて幼こ保園所長会で説明した。また、小中学校に対しても、気になる児童生徒には本人・保護者の同意の上で作成することができることを再確認した。関係者の理解が深まった結果、作成依頼が増えてきており、サポートファイルの活用が少しずつ広がっていることが実感できた。関係機関との連携や園校種間での引継ぎに大いに活用することができた。 【課題】 サポートファイルの活用は、少しずつ広がっているが、サポートファイルの詳細についての認知度は、まだ低い。継続して、特別支援コーディネーター会議等で作成の目的や内容について知らせていくとともに、その活用方法、引継ぎ方などについてより良いものになるようブラッシュアップしていく必要がある。

あわじ教育相談

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	兵庫県立あわじ特別支援学校の相談員が、原則、毎月第2、第4木曜日に特別な支援が必要であると思われる幼児、小中学校に在籍する児童生徒を対象に日頃の生活や学習、進路における支援の方法等について教育相談を行った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 2人の相談員による対応で、令和3年度の相談件数は81件であった。教育相談を通して、幼児、児童生徒の支援方法への理解が深まったり、医療機関を紹介することによって通院して特性を確認できたりと、将来に向けた支援の方向性について考えることができる取組となった。また、児童生徒本人と保護者だけではなく担任等も同席することで、学校園所との共通理解が深まり、スムーズに支援体制を構築できることもしばしばであった。 【課題】 教育相談では通級指導や特別支援学級への入級、進路選択等の相談もあることから、淡路地域のセンター的役割をしているあわじ特別支援学校の相談員とさらに連携を深める必要がある。

基本的方向5

キャリア教育の推進

【重点目標】

【主な取組】

ア 体系的・系統的なキャリア教育の推進

- ① キャリアノート等の活用
- ② 幼こ保・小・中・高の連携
- ③ 小中一貫教育

イ 社会に触れる機会の充実

- ① トライやる・ウィーク
- ② 夢プロジェクト

キャリアノート等の活用

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	キャリアノートやキャリア教育指導資料等を活用して、自分自身のことや将来にわたって学ぶこと、働くことの意義・役割等を理解させ、社会の一員としての自覚や社会参画への意欲や態度の育成を図った。また、令和2年度より、キャリア・パスポートを活用して、小学校から中学校、高等学校へとキャリア教育に関わる自らの学習状況を引き継いでいる。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 学期のはじめや終わり、学校行事や学年での取組などで目標を立てたり、振り返ったりするために活用することにより、児童生徒が自らの成長を実感することができた。特別活動を中心に国語、社会、道徳などでも活用することができた。また、従来のキャリアノートは内容が充実すればするほどファイル自体が厚くなり引き継ぎにくかったが、キャリア・パスポート(各学年A4サイズ2枚分)を活用することで、スムーズに引き継ぐことができています。 【課題】 キャリアノートやキャリア・パスポートの引き継ぎ内容を十分把握した上で、新年度のキャリア教育の計画を立てる必要がある。また、キャリア・パスポートにある「先生から」の欄には一人一人の次のステップにつながるように後押しする内容を記入することが大切である。キャリアノートとキャリア・パスポートの活用をさらに促進し、充実したものにしていきたい。

幼こ保・小・中・高の連携

担当課	子育てゆめるん課・学校教育課
事業内容・実施状況等	幼こ保から小・中・高まで、それぞれの園校種間の接続期において、子どもの発達や学びの具体的な姿を共通理解し、学びに繋げていく。授業研究会や研修会等を実施し、小・中・高間の交流をさらに進めていく。また、防災ジュニアリーダー研修など本市独自の事業を通して小・中・高生が共に体験できる事業や活動を通して連携を図る。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 サポートファイルやあわじ教育相談を通して、幼こ保と小学校、小学校と中学校の接続期における情報交換、共通理解を促進することができた。キャリア・パスポートを活用して、小学校から中学校、高等学校へとキャリア教育に関わる自らの学習状況を引き継ぐことができた。また、幼こ保、小・中が合同で防災訓練を行うなどの連携も図った。南あわじ市教育支援委員会においては、令和4年度の特別支援学級の入級について、小学校入学に向けて幼こ保と小学校が、中学校入学に向けて小学校と中学校がそれぞれ情報共有し、連携を図ることができた。中・高間の接続期において連携シートの活用もなされ、切れ目のない一貫した連携の促進が図れた。 【課題】 小・中の連携は比較的しやすいが、幼こ保や高校との連携が十分ではないため工夫が必要である。例として幼こ保と小学校との連携では県教委作成の「親子ノート」の活用が考えられる。親子ノートとキャリア・パスポートがつながると幼こ保から高校まで連続したものになることが期待できる。

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

小中一貫教育

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	令和2年度より、沼島小中学校において、小中一貫教育を開始した。小中連携での計画的な行事や活動、特別支援や生徒指導等における円滑な連携を図ることができた。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 沼島中学校の教員が沼島小学校6年生の授業(算数、社会、外国語)、5・6年生の授業(理科)を担当するカリキュラムを作成し、実施した。結果、小学校の5、6年生の複式学級が解消され、授業を充実させることができた。また、中学校の各教科の教員が小学6年生の学習状況を把握できたので、中学1年への接続が教員にとっても生徒にとってもスムーズであり、学習面における中1ギャップを軽減することができた。 【課題】 小中一貫教育のカリキュラムについて、分析、改善していく必要がある。また、学習面だけではなく校務分掌や特別支援教育、生徒指導等における連携もさらに進めていく必要がある。

トライやる・ウィーク

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	事業所、地域、学校、家庭との連携を図りながら、子どもを育てる活動として、中学校2年生を対象に24年目(平成10年度～)を迎えた。コロナ禍ではあったが、各中学校の実態に合わせて5日間の活動を実施することができた。内容については4校が従来通りの職場体験活動を実施、1校が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため地域貢献活動を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 中学校における進路指導、キャリア教育と関連づけて、事前事後指導の充実を図り、生徒一人一人が自分たちの生き方を見つめ、考えるきっかけとなった。また、職場体験活動や地域貢献活動を通して生徒が地域への貢献と繋がりを実感することができ、地域とのつながりがより深くなった。令和4年度に向けて新規の協力事業所の確保に努めるため担当者や事業所の代表者を集めて、トライやる・ウィーク推進会議を開くことができた。 【課題】 この経験を活かして、事後も地域行事や地域の活動に参加するなどの活動「トライやる・アクション」がコロナ禍のため十分実施できなかった。トライやる・ウィークの活動と合わせてポストコロナ社会での活動の工夫が必要である。この事業で培われた地域の教育力を活用し、今後も事業所に協力依頼しながら生徒たちにとって充実した活動になるよう継続していきたい。

夢プロジェクト

49～50ページにも記載

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	小中学生を対象に、著名なスポーツ選手・文化人等を講師として招き、スポーツや文化の魅力や楽しさ、努力することの大切さを感じてもらうとともに、また友達を大切にする心を育み、大きな夢を持って今後の活動と豊かな生活を送ってもらうことを目的に実施した。 派遣学校 中学校 1校(倭文中) ※三原中・広田中は中止 小学校 4校(神代小・賀集小・福良小・北阿万小)
成果・課題 及び 今後の対応等	【成果】 プロと出会え、間近でその素晴らしさに触れる体験は児童にとってまさしく夢プロジェクトである。趣旨通り、本物を体験することで大きな感動が生まれ、子どもたちの夢が広がっていることは感想からもうかがえた。たとえ、そのプロが将来の選択肢でなくても自分の得意なことや人や社会を元気づけたい、子どもたちにそんな思いが生まれ、自分の夢や志を考えるきっかけになる体験となった。また、子どもたちにとって年齢的に近い存在である大学生や憧れの選手が、コロナ禍においても夢をあきらめず練習や活動が続けていることも希望になっていた。そして、そんな夢の実現のために多くの人の支えがあることにも気づききっかけとなった。 【課題】 児童生徒にとって有意義な一日となるよう、天候や日程調整や時間の調整がなかなかできない。また、学校の希望の種目の選手が来るように尽力してくれているが希望通りとはならないところに課題がある。



Vリーグ大会観戦並びにバレーボール教室
(文化体育館)



チアリーディング (賀集小)



少年野球教室 (三原健康広場)



バレー (倭文中)



陸上 (福良小)



ダブルダッチ (北阿万小)



バレエ (神代小)

基本的方向6

幼児期における教育の充実

【重点目標】

【主な取組】

ア 幼児期における教育の質の向上

- ① 遊びから学びに繋がる体験活動
- ② 本との出会いの場の提供
- ③ 職員の研修

イ 幼児期と児童期の円滑な接続

- ① 幼こ保小連絡協議会
- ② 交流活動の充実
- ③ 育児力の強化

遊びから学びに繋がる体験活動

担当課

子育てゆめるん課

事業内容・
実施状況等

子ども達が展開する主体的な遊びとして、自然物の観察活動、季節の行事活動から広がる遊び、得意なことや興味あることを発展させた遊びを実施した。

成果・課題
及び
今後の対応等

【成果】 おもしろそう、やってみたいと自分から興味を持ち、周りにある「人・もの・こと」と関わっていく中で、これどうなってるのかな、こんな風にしてみたいなど好奇心、探求心を働かせたり、思いを巡らせたり、イメージを膨らませたりして、自分のしてみたいことを実現して遊びを創ることができた。また、その遊びを共に生活する仲間に伝え、みんなの前で披露したり、自己表現や自己発揮する姿が見られた。自分達の興味や得意なことを認め合い、必要な物を揃え、遊びの進め方をクラスで相談し、互いの意見を受け入れ合い、共通の目的に向かってクラスでの活動として計画し実践した。
季節の行事を通し、親しんだ文字や数を年賀状ごっこやカルタ作り等に活用させながら、文字の便利さに気づき、数の感覚を身に付けていくことができ、学びに向かう力が感じられた。

【課題】 子ども達の心に寄り添い、内面にある思いに目を向け理解しながらどんな事に興味を持っているのかを意識して関わり、それに応じた環境をつくることや、子どもの発達段階を把握した環境設定や、子どもの思いや気づきを大切にしたい保育を積み重ねたことが、子ども達が楽しいと思える学びの場を作っている。さらにやりたいことを自分で見つけ、自分で考え工夫をして遊ぶ活動に繋げていきたい。

本との出会いの場の提供

担当課	子育てゆめるん課
事業内容・実施状況等	日常の保育や生活の中で、保育者が絵本を読み聞かせたり、自然観察等を通して子ども同士で図鑑や絵本を見合ったり地域ボランティアの方による読み聞かせ活動、また、家庭への絵本貸し出し等を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 保育室や子どもが目にしやすい場所に季節やその時に興味のある絵本を置くなり、いつでも絵本に触れ、手に取れるよう環境を整えたところ、園庭で見つけた草花や虫など、興味をもったものをすぐに図鑑等で調べる習慣や、折り紙やあやとりの仕方を友達と一緒に本を見ながら考え、相談し、工夫して進めていくなど、子ども達にとって絵本が生活や遊びの一部、身近なものとなっている。 地域の人による読み聞かせは、保育者の読み聞かせとはまた違った雰囲気、子ども一人一人がそれぞれの感性で物語に没入し、地域の人とのかかわりを楽しんでいる。 保育の中での読み聞かせでは、登場人物の気持ちに触れ、登場人物になりきって表現遊びを楽しみ、ごっこ遊びや劇遊びに発展するなど、絵本を通してイメージや想像を膨らませることで心が豊かになっている。 【課題】 絵本がもたらすたくさんのメリットや、この時期に絵本に触れることの大切さを、保護者にもっと知ってもらうことが重要であり、そのための方法を模索していく必要がある。 小学校と連携し、小学校の図書室を開放してもらったり、市の図書館を園として利用させてもらうなど、子どもたちや職員も、より多くの絵本や本に触れ、多くの学びや感性を豊かにしていきたい。



職員の研修

担当課	子育てゆめるん課
事業内容・実施状況等	幼稚園等新規採用教員研修、南あわじ市職員研修会(実技・講演)、職員人権研修会、各園で開催の保護者・職員対象の人権研修会、オンライン研修に参加。 園内研修や主任保育教諭会、保育士会、幼稚園・こども園での歳児別担当者研修会等を実施。 学びの芽生えプログラムの実施にあたり、モデル園から取組みをスタート。5歳児対象に子ども達の遊びを通じた学びを見取り、「学びのめばえノート」に記録。子どもの成長を保護者と共に情報共有し、信頼関係を構築する。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 研修を受講し、学んだ事を園の職員に報告。情報を共有し合い、意見交換することで、幼児理解へ繋がった。歳児別研修会等では、各園の実践報告が学び合いの場となり、子ども達への対応や環境設定の工夫と見直しに努めていくことができた。学びの芽生えプログラムにより、モデル園からの実践を全職員に報告し、人格形成の基礎を育む幼児期の教育において遊びから学びを見取る保育者としての能力を身に付ける必要性を感じ、資質向上への意識がより高まってきた。 【課題】 子どもの見方や保育のアイデアを豊かにするため、園内研修をさらに充実させ、職員が相互理解を深め、チームワークを強化し、園の保育の質を高めていきたい。

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

幼こ保小連絡協議会

担当課	子育てゆめるん課・学校教育課
事業内容・実施状況等	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続と体制作りとして、各校長・園長が集まり、交流計画や連携についての意見交換を年2回実施した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 幼稚園・こども園・保育所(園)・小学校の交流内容について、お互いに意見交流や情報交換ができ、幼児教育への理解が得られた。特に、幼稚園教育要領改訂の実施に伴い、幼稚園・こども園・保育所(園)において、幼児期の教育として「幼児期において育みたい資質・能力」が、小学校につながる「基礎」となることを、研修会で学ぶことができた。幼稚園・こども園・保育所(園)・小学校の連携を大切にするため合同研修会を計画し、資質能力の育成に努めることの重要性を共有した。 【課題】 幼稚園・こども園・保育所(園)と小学校の交流の場を広げるだけでなく、お互いに授業参観を通して、どんな力や学びがつながっているのか、理解し合うことが必要である。今後、幼児期の教育と小学校教育に滑らかな接続に取り組むためにもカリキュラムを整える必要がある。

交流活動の充実

担当課	子育てゆめるん課
事業内容・実施状況等	コロナ禍の中、できることを工夫して交流活動に取り組んだ。地域の人とのふれあい活動、園庭開放、他園・小学校との交流、トライやるウィーク等、各園でできる活動を増やし、特色ある園づくり、開かれた園づくりを展開し、地域との協働及び交流活動の充実を図った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 コロナ禍により、交流活動が縮小される中、地域に開かれた園づくりをめざした活動を計画し、地域が主体となって子どもの感性を磨く取組や、子ども達が楽しめる行事を展開した。また、豊かな自然を活かした活動や町散策を通して自然や人とのつながりを感じ、自分の町の良さを知る機会を設けた。これらの取組により、地域の人に愛され見守られ、成長していくことを保護者とともに実感することで郷土愛が育まれた。 【課題】 地域に開かれた園づくりをめざし、地域ならではの良さを生かす活動の発信や取組となるよう工夫し、人との繋がりを絶やさず続けていく努力をしていく。

育児力の強化

担当課	子育てゆめるん課
事業内容・実施状況等	子育て支援事業として、幼児教育・保育の無償化、預かり保育、病児・病後児保育に取り組んだ。 保護者支援活動として、幼児教育資料すくすくひょうごっ子の配布、園での保護者研修会、個人面談を実施した。 園庭開放をし、未就園児の遊び場を提供した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 預かり保育や病後児保育事業への取組での利用率は高まってきている。また、園行事として親子参加型の研修、保護者人権研修などを実施した。参加人数も多く、熱心に取り組む保護者も多い。行事や研修後には、保護者からの様々な意見や感想を頂き、保育を見直す参考にしたり、保護者に歩み寄ることもできた。個人面談などでは、園での様子を知らせたり、子育てについての悩みを聞いたりする場として保護者との連携を図り、子どもの成長につなげた。園庭開放をすることで未就園児に遊びの場を提供すると共に親同士の交流の場ともなった。 【課題】 幼児期における子どもの一人一人の成長をわかりやすく保護者に伝えていく方法（幼児教育資料や個別の学びの育ちノートの作成など）を計画し、子育ての喜びが感じられるような教育、保育の充実を図り、保護者支援を行っていく。



基本的方向7

南あわじ市の防災教育の推進

【重点目標】

【主な取組】

ア 防災教育の充実

- ① 防災ジュニアリーダー養成事業
- ② 防災出前授業
- ③ 自然学校「防災学習」



イ 学校防災体制の充実

- ① 学校防災マニュアルの作成
- ② 避難所運営部会

防災ジュニアリーダー養成事業

担当課

学校教育課

事業内容・
実施状況等

小中学生を対象に参加者を募り、防災ジュニアリーダー養成合宿、東北ボランティア活動を継続していき、将来の災害において臨機応変に対応できる力やリーダー性を身につける。令和3年度はコロナ禍のため本来の形での実施を見送り、防災ジュニアリーダーのオンライン研修や東北から講師を招聘しての避難所運営のワークショップ、東北とオンライン中継をしての研修を実施した。
南あわじ市内の内陸部と沿岸部の中学校間で、防災パートナーシップを締結し、研修会を実施して、自校の役割を確認した。

成果・課題
及び
今後の対応等

【成果】 市内中学校の相互扶助を目的とした防災パートナーシップの締結に際し、ZOOMを使用したオンラインの打ち合わせ会や集合研修会を実施することができた。避難所運営のワークショップでは、実体験に基づいた避難所での児童生徒の役割の大きさを知ることができたことで、自分ごととして避難所運営について考え、意見交換をすることができ、防災への知識や意識を高めることができた。

【課題】 新型コロナウイルスの影響で、防災ジュニアリーダー養成合宿、東北ボランティア活動が中止となった。より一層、コロナ禍に対応した防災教育や、体験活動のあり方を考え、進めていく必要がある。



防災出前授業

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	平成29年5月に舞子高等学校と南あわじ市で教育に関する協定を結び、1年に3回、計6校の予定で高校生による防災出前授業を継続している。 また、教育長が講師となって市内小中学校を訪問し、「防災をなぜ学ぶのか」をテーマに児童生徒を対象に防災学習の講演を実施している。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 舞子高校による防災出前授業は、コロナ禍ではあったが、6校で十分な感染防止対策のもと対面式で実施した。児童にとって親しみやすく、わかりやすい授業となった。教育長の出前講座はコロナ禍で人数の関係もあり、学年を絞っての実施ではあったが、小学校1校で実施することができた。少人数にしたことにより、個々の意見にも十分時間をかけることができ、防災の理解が深まった。 【課題】 コロナ禍の状況に合わせて様々な形で出前授業を進めていく必要がある。今後防災教育を深めていくために、その時の状況に応じた効果的な授業形態をより一層考えていく必要がある。



自然学校「防災学習」

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	市内全小学校の5年生が、自然学校において、震災・学校支援チーム（EARTH隊員）や市役所危機管理課職員を招くなどして、各校で工夫した防災学習に取り組んでいる。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 コロナ禍ではあったが、EARTH隊員による校区内の防災施設を確認する防災ウォークラリーを実施し、災害時の避難行動について考えることができた。また災害時を想定した野外炊飯等を実施している学校もあり、制限された状況下で野外炊飯を実施し、水が十分使用できないだけでも非常に不便であることを体験することができた。日々の生活に防災の視点が少し入ってくるだけで、防災意識や知識が向上し、いざという時の自分の命を守る行動につながるのだということを学習することができた。 【課題】 コロナ禍での避難等、複数災害下での行動はこれまでの防災学習ではカバーしきれない部分がある。できる備えを行った上でも想定外の事態は起こると考えられる。経験や学習したことのない場面に遭遇しても、その時の状況や情報からよりよい判断、行動ができる力の育成が急務である。

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

学校防災マニュアルの作成

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	学校独自で作成している「防災マニュアル」を、防災訓練等の機会を活用して見直し、校内研修を通じて危機管理意識や判断力、行動力の育成をめざし、組織としての連携を図る。また、被災時の避難所運営において、地域における学校の役割、教職員個々の役割等についても理解を深める。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 従来の学校防災マニュアルがコロナ禍に対応しているかをさらに見直すことができた。被災時の避難所運営において、地域における学校の役割、教職員個々の役割等についても理解をさらに深めることができた。 【課題】 コロナ禍の影響で、避難の際、人数制限や消毒、トイレや食事の確保、感染者の隔離等今まで以上に様々な事態の想定が必要になってくる。同時に高齢者、障害者、乳幼児、妊娠婦やコロナ感染者等要支援者への支援体制の確立が急務である。

避難所運営部会

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	地震拠点避難所7箇所に関係者が集まり、部屋割り、物資管理場所、避難所生活でのマナーとルール、避難所での役割分担等を確認し、情報の共有を徹底する。また、各場所の避難所運営部会の報告を挙げ、避難所開設・運営マニュアルの内容を確認している。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 令和3年度は6月から7月にかけて拠点避難所部会、7月末に防災教育推進連絡会議を実施した。また、コロナ禍における十分な対策の上で研修を実施することができた。 【課題】 コロナ禍を想定し、拠点避難所だけでなく、広域避難所においても関係者の打ち合わせや被災時を想定した訓練が必要である。災害はいつ起こるか分からないため、年度の早い時期に拠点避難所部会を実施する必要がある。

基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築

基本的方向1 教職員の資質・能力の向上

基本的方向2 学校の組織力の強化

基本的方向3 安全・安心な教育環境

基本的方向4 家庭と地域による学校と連携した教育の推進

基本的方向5 人権文化をすすめるまちづくり

基本的方向1

教職員の資質・能力の向上

【重点目標】

【主な取組】

ア 研修体制の充実

- ① 基本的な資質・能力向上のための研修
- ② 南あわじサテライト講座
- ③ スクールチャレンジ事業の活用



イ 教職員の働き方改革の推進

- ① 教育用コンピュータ管理
- ② 教職員の勤務の適正化

基本的な資質・能力向上のための研修

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	絶えず研修を深めることで、「学習指導」「学級経営」「生活指導」等の教育の専門家として感性豊かな実践的指導力の向上をめざす。また、すべての教職員にとって必要な高い使命感・倫理感のさらなる醸成を図る。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 令和3年度はコロナ禍で多少の制限はあったが、無事新年度のスタートとなり、引き続き、児童生徒の心の安定を優先し、丁寧な児童生徒理解に基づいた「学級経営」の研修を行った。また、校内研修では、新学習指導要領に基づいた教科書の教材研究や授業研究に取り組んだり、児童生徒が主体となる授業改善や視覚的支援に有効なICTの活用等の推進をしたりした。「生活指導」として、コロナ禍による新しい生活様式の理解研修やいじめへの対応研修を基にOJTによる研修体制を整えた。 【課題】 コロナ禍のため専門家を招聘した研修が動画やオンライン研修となり、話し合ったり、考える時間が少ない伝達研修となった。そのため、校内研修では、目的に応じた効果的な研修を考えていく必要がある。また、ストレスによる非遵行やメンタルヘルス等の研修は必要である。

南あわじサテライト講座

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	兵庫教育大学との提携により、南あわじ市サテライト講座を5回行っている。そのうち2回は教職員の資質向上研修で、3回は学校経営講座をしている。令和3年度はコロナ化の影響もあり、学校経営研修は2回の実施となったが、南あわじ市及び淡路地域の学校づくり、管理職・ミドルリーダー等の育成を図る。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 令和3年度の資質向上講座は、森山教授の「GIGAスクール構想のこれから」、井澤教授の「行動分析における児童支援」を実施した。iPad、電子黒板等ICT機器の有効な活用方法や応用行動分析から「できる」ための環境づくりについて研修することができた。学校経営講座では、浅野教授の「学校経営ビジョンの展開」「重点事項の設定」「重点事項の具体化」をワークショップを交え行った。学校における管理職や主幹教諭、ミドルリーダーを中心に、教師としての資質・能力の向上を図り、学校運営やマネジメントについて意見交流しながら深く学ぶ場となった。 【課題】 教師の資質・能力の向上は必須である。今後は、学校運営を担う管理職が不足する事態が予想される中で、マネジメント能力育成や中堅教員の資質向上等を通して、学校経営の見方考え方を育成し、社会の多様な価値観への対応を組織として構築する必要がある。



スクールチャレンジ事業の活用

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	令和元年度より開始し、各学校がそれぞれの課題や特色に応じて、主体的に独自の切り口で課題解決に取り組む。また、研究指定を受けて取り組んできたものをさらに継続発展させる。事業の取組状況や成果については、校務支援システムやHP等において共有化及び情報発信を図る。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 今年度も各学校では年度末に学校評価などを基に取組課題を洗い出し、研究テーマを設定し、計画を作成した。そうすることで課題を焦点化し、全教職員で共有することができた。またその課題を新年度にスムーズに引き継ぐことができ、解決に向けて取り組むことができた。そして何より教職員の自主性を育むことができた。この取組を継続的に実施し、PDCAサイクルを活用することで効果的な学校運営ができると期待している。また、校務支援システムの掲示板の活用やHPの開設ができ、学校教育の見える化が進んだ。 【課題】 めざす子どもの姿への到達度を図るルーブリック評価を有効に活用し、事前に児童生徒自身が目標を理解し、現時点での到達度を確認しながら主体的に取り組める環境づくりが必要である。

教育用コンピュータ管理

36ページ「統合型校務支援システム」と同内容

担当課	教育総務課
事業内容・実施状況等	児童生徒の名簿管理、成績管理、健康観察等に加え、メールや掲示板等のグループウェア機能活用により教職員の負担軽減、教育の質的向上、校務の標準化と業務改善等を図る。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 令和3年度は、成績・出欠等の校務支援全機能についてモデル校(旧西淡地区の小中学校5校)での部分稼働から、全学校における本格稼働に移行した。モデル校では、操作に慣れてきたこともあり、名簿や出席簿、成績等の管理で効率化が図られている。 【課題】 モデル校において3年間継続的にアンケートをとった結果、半数近くの教職員が導入前より良くなったと回答している一方、システムで対応出来ていない部分についてExcelを使って補っているため負担を感じているとの回答も見受けられた。業務改善を図るためには、システムのさらなる改善や定期的な運用マニュアル見直し及び操作研修などを引き続き行う必要がある。

教職員の勤務の適正化

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	統合型校務支援システムを導入し、グループウェアを用いて校務の市内統一化を進めることにより、業務の効率化を図る。また南あわじ市教職員勤務時間適正化検討委員会にて学校業務改善の推進にあたり5つの重点目標を掲げ、教職員の業務を見直すとともに教職員の意識改革を図る。そして、教職員の長時間労働の状況を改善し、教職員が子どもと向き合う時間を確保する。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 教職員勤務時間適正化検討委員会、業務改善に係るIT推進委員会や専門部会等組織的に業務改善対策を協議することができた。また統合型校務支援システムについては4月より市内全小中学校で実施し、システム面の改善や運用面のマニュアルについて見直しを行った。教職員の長時間労働については、新型コロナウイルスの影響もあり、学校行事の精選や内容のスリム化を図る中で、ずいぶん減少してきた。 【課題】 統合型校務支援システムの導入直後は使い慣れるまでしばらく時間がかかった。導入後も計画的に研修を実施することで、全教職員の業務改善につなげていく。また各種の委員会でシステム面や運用マニュアルの見直しは引き続き必要である。教職員の長時間労働については、まず教職員の意識改革を図り、学校において記録簿のあり方を見直していく。また学校安全委員会の活用を図り、教職員のメンタルヘルスの保持・増進に配慮した校内体制を構築していく。

基本的方向2

学校の組織力の強化

【重点目標】

【主な取組】

ア 管理職の育成

① 南あわじ市サテライト講座「学校経営講座」

イ いじめ等問題行動・不登校への対応

① いじめ防止
② 不登校児童生徒への支援の充実
③ 市小・中・高生徒指導連絡協議会

南あわじサテライト講座「学校経営講座」

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	兵庫教育大学の浅野教授による学校経営講座を3回開催する。そのうち、1回は教授と現職大学院生による学校視察・学校評価を実施し、学校経営やマネジメントについて意見交流を持つ。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 各学校の課題、学校運営やマネジメント等について、グループ討議をして意見交流を図った。浅野教授の講座「学校経営ビジョンの展開～重点事項の設定・重点事項の具体化～」をワークショップを交えながら行い、改めてミドルリーダーや管理職の役割を考えるとこととなった。さらに学校視察・学校評価では、神代小学校、北阿万小学校、広田中学校、淡路三原高等学校へ7～8名の教授と現職教員大学院生が現状を把握・分析し、改善方策の提言をいただいた。 【課題】 講座で学んだことを各校においてフィードバックし、組織的・計画的な人材育成及び学校経営の改善を進めていく必要がある。社会の変化の大きさとスピードが一段と増している中で、リーダーを中心に学校の「改善力」「組織力」を高めていかなければならない。

いじめ防止

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	いじめ問題対策連絡協議会は、学識経験者、保護者代表、学校代表、南あわじ市警察署、人権・福祉等関係機関を委員に委嘱し、市のいじめ防止について市内の状況や小中学校での取組等、情報交換及び協議を行った。 いじめ問題対応委員会は、弁護士、精神科医、臨床心理士、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを委員に委嘱し、市内小中学校の状況を情報共有後、重大事態への対処について確認を行った。 学校運営支援対策員事業では、学校と密接に連携し、生徒指導上の課題に対する相談や問題の未然防止・早期発見・早期対応の支援を行った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 小中学校の中には児童生徒が主体となって、いじめ防止の活動を行うなど、教師からの指導だけに偏らず、児童生徒側からも積極的にいじめと向き合い、いじめを許さない集団づくりを進めることができた。また、いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題対応委員会で、各学校の現状と取組について情報共有ができ、いじめを許さない学校づくりについて意見交換を行い、学校への啓発を行うことができた。また、いじめ事象の分析を行い、情報共有を図った。 【課題】 インターネット、SNS等でのいじめは、実態が把握しにくくなってきている。いじめの芽を見逃さず、早期発見、早期対応するためにも、全教職員がいじめの定義を再確認したうえで積極的に認知を行っていくことが重要である。また学校と保護者・地域・関係機関がさらに連携を密にして、対応・啓発していく必要がある。

不登校児童生徒への支援の充実

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	適応教室(4教室)において、不登校児童生徒の集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等のための相談・適応指導を行う。 校内の生徒指導委員会で情報共有し、必要に応じて適応教室指導員、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーとの連携を図る。また、中学校区の生徒指導連絡協議会にて情報共有し、小中連携を図る。また、南あわじ市小・中・高生徒指導連絡協議会では現状の把握や関係機関との連携を図り、不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援を行う。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 GIGAスクールによる学習用iPadを活用して、学校と家庭、教室と別室をつないで授業を受けることができた事例もあった。また、適応教室と学校をオンライン接続し、ZOOM等のアプリを活用することで連絡を取り合うことができた。そうすることで、コロナ禍であっても適応教室にしながら、学校の授業を見ることができた。 【課題】 児童生徒が何らかの理由で休み始めた時に、早期に、組織的な対応をすることにも関係機関と連携する必要がある。

市小・中・高生徒指導連絡協議会

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	青少年育成センター長、南あわじ市警察署、市民福祉部子育てゆめるん課、淡路三原高等学校生徒指導、小中学校生徒指導担当校長、小学校ブロック代表生徒指導、各中学校生徒指導、教育委員会を委員として、年に5回実施する。各関係機関から情報提供及び今日的な問題を全体で協議する。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 問題行動や不登校児童生徒の問題が小・中・高のどの校種で発生しようと、情報共有を図り、関係機関から情報提供できるシステム作りができていたので解決が早い。令和2年度からスマホ・ネットのアンケート調査票を市内の中学校で統一したことにより、情報共有がしやすくなった。 【課題】 年に5回実施しているが、各校種の問題行動・不登校等の報告件数が増加し、内容も多様化していることから、1件に対して全体で協議する時間が減少していることが課題である。

基本的方向3

安全・安心な教育環境

【重点目標】

【主な取組】

ア 施設・設備の改修

- ① 大規模(長寿命化)改造工事
- ② 校舎等営繕工事

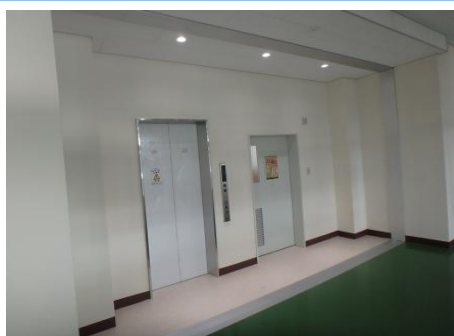
イ ICT等の設備

- ① 統合型校務支援システム
- ② GIGAスクール構想事業



大規模（長寿命化）改造工事

担当課	教育総務課
事業内容・実施状況等	老朽化を迎えている学校施設の耐久性及び機能性の向上を図るため、大規模改造工事を行う。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 令和3年度は、松帆小学校の大規模改造工事、賀集小学校と志知小学校の第1期大規模改造工事、志知小学校のバリアフリー対策工事(エレベータ棟の増設、多目的トイレの改修等)を実施し、学校施設の耐久性及び機能性の向上を図り、より快適で安全・安心な学校生活の確保ができた。 【課題】 令和4年度は、志知小学校と賀集小学校の第2期工事に加えて、榎列小学校、三原中学校も大規模改造工事を行うため、適切な工事進捗管理により的確に工事を実施する。 また、国の補助金制度の変更により令和5年度以降は『長寿命化改良事業』のみとなるため、適切な補助金制度を利用した財源確保に努める。



志知小学校 エレベータ棟増設工事



賀集小学校 大規模改造工事

校舎等営繕工事

担当課	教育総務課
事業内容・実施状況等	屋内運動場床改修工事やトイレの洋式化工事など、大規模改造工事のような施設の全面改修には至らないが、特定の目的をもって部分的な改修を進めていくことで安全・安心で学習効果の高い教育環境を維持管理する。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 市小学校屋内運動場改修工事、北阿万小学校防水改修工事、3校の屋内運動場床研磨工事、5校のトイレ洋式化等を行い、安全に学習できる環境を整備することができた。 【課題】 児童生徒が安全に安心して学習できるよう、計画的に実施する必要がある。また、学校施設に求められる環境も変化してきており、バリアフリー化や、トイレの洋式化、空調設備等への対応も合わせて検討する必要がある。

統合型校務支援システム

32ページ「教育用コンピュータ管理」と同内容

担当課	教育総務課・学校教育課
事業内容・実施状況等	児童生徒の名簿管理、成績管理、健康観察等に加え、メールや掲示板等のグループウェア機能活用により教職員の負担軽減、教育の質的向上、校務の標準化と業務改善等を図る。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 令和3年度は、成績・出欠等の校務支援全機能についてモデル校(旧西淡地区の小中学校5校)での部分稼働から、全学校における本格稼働に移行した。モデル校では、操作に慣れてきたこともあり、名簿や出席簿、成績等の管理で効率化が図られている。 【課題】 モデル校において3年間継続的にアンケートをとった結果、半数近くの教職員が導入前より良くなったと回答している一方、システムで対応出来ていない部分についてExcelを使って補っているため負担を感じているとの回答も見受けられた。業務改善を図るためには、システムのさらなる改善や定期的な運用マニュアルの見直し及び操作研修などを引き続き行う必要がある。

GIGAスクール構想事業

担当課	教育総務課・学校教育課
事業内容・実施状況等	GIGAスクール構想は、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びを提供する構想であり、1人1台のタブレット端末を使用し、論理的思考力や情報活用能力の向上を図る。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 全児童生徒に『1人1台端末整備』を実現し、加えてコロナ禍における学級閉鎖等にも対応出来るよう、令和2年度中に3,810台(うち30台は予備機)のLTE用タブレット端末(iPad)と156台のタブレット充電保管庫を導入した。令和3年度から全学年で授業に活用するとともに、持ち帰り学習やオンライン学級活動に使用している。 また、令和3年度には電子黒板152台、プリンタ141台等を各普通教室に整備し、デジタル教科書の本格導入に向けてICT活用を推進している。 【課題】 ICT機器の活用状況については学校によって違いがあり、活用方法について情報共有を行うなどの対策を行っているものの、学校間の格差が生じている。また、学校内のICT機器の操作に明るい教職員に負担が掛かっている点も課題となっている。今後の対応策として、幅広い層を対象とした研修の実施やICT支援員の導入等を計画している。 また、タブレット端末は5年周期の更新で次回令和7年度を予定しているが、更新時における国からの補助金は確約されておらず、財源確保が困難な状況になると予想される。国や県へ補助金の制度化を要望を行うとともに、財源確保について検討していく。

基本的方向4 家庭と地域による学校と連携した教育の推進

【重点目標】

ア 家庭の教育力の向上

イ 地域の教育力の向上

【主な取組】

- ① 学力向上リーフレットの配布
- ② 家庭学習の手引き

- ① 放課後児童健全育成事業
- ② 放課後子ども教室事業
- ③ サマースクール事業
- ④ 地域学校協働連携事業
- ⑤ 青少年育成センター事業

学力向上リーフレットの配布

担当課

学校教育課

事業内容・
実施状況等

全国学力・学習状況調査を分析し、家庭の教育力向上のため市教育委員会で保護者向けにリーフレットを作成・配布した。各小中学校で課題を明確にし、学校・家庭・教育委員会で学力向上に向けた取組を進めている。

成果・課題
及び
今後の対応等

【成果】 「南あわじっ子に確かな学力を！」と題して、家庭で学力を育てるためのポイントをまとめた。全小中学校保護者に向けて配布することで、家庭のかかわりの大切さや生活習慣の確立などを啓発することができた。小中学校では学力向上に向けた授業改善プランの作成時の参考資料としてリーフレットを活用することができた。また、「第3期南あわじ市教育振興基本計画」の南あわじ市の目指す教育のテーマ「学ぶ楽しさ日本一」をわかりやすく掲載することができた。

【課題】 全国学力・学習状況調査の結果をもとに、学力と生活習慣等の状況がわかるリーフレットを作成した。今後は、リーフレットを活用し児童生徒自身が自分の生活や学習を見直していく体制を整えていく必要がある。



家庭学習の手引き

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	子どもの望ましい学習習慣や生活習慣の形成に向けて、各学校は発達段階に応じた「家庭学習の手引き」を配布している。また、市からは「南あわじっ子に確かな学力を！」のリーフレットを配布し、家庭での取組や学習について、学校と家庭の連携を図る。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 各学校は、子どもの発達段階に応じた家庭学習の時間や方法、生活習慣の形成に係る内容や新しい学習指導要領等についてまとめてリーフレットを作成し、令和3年度も配布した。学校と家庭との連携を図り、保護者の教育への意識の向上に取り組むことができた。 【課題】 保護者に対しては、学習習慣や生活習慣の形成が重要であることを継続して啓発し、リーフレットの内容をさらに工夫・充実させていく必要がある。また、子どもが主体的に家庭学習に取り組めるように、学校と保護者がさらに連携していくことが大切である。

放課後児童健全育成事業（学童保育）

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	共働き家庭等の小学生の児童（1年生から6年生）を対象として、放課後等に遊びや生活の場を提供し、児童の健全育成を図る目的で、市内13か所（学校内9か所、専用施設2か所、公民館内1か所、私立こども園内1か所）で実施した。コロナ禍において、感染症対策を徹底した上で、安心安全な環境を提供した。さらに、支援員への研修会を実施し、資質向上を高めた。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 登録者は全体で平均351人であり、令和2年度の平均より9人の増加となっており、社会状況の変化による核家族化や共働き家庭の増加が考えられる。学童保育では、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら家庭に代わる場所として、宿題や読書、遊びなどを通じて異年齢の児童がともに過ごし学び合う機会を創出し、安心安全な環境を提供したことで、子どもたちの健やかでのびのびとした姿等が見られた。また、夏休みには、淡路三原高等学校の生徒や吉備国際大学の学生によるボランティア活動の協力があり、普段関わる機会が少ない世代との交流を図ることができた。 【課題】 新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、学校等の施設を活用しつつ安心安全な環境を確保するとともに、遊びの中に学習・体験・スポーツ等のプログラムを取り入れ、放課後子ども教室との一体型を実施しながら、学童保育と放課後子ども教室を融合した「アフタースクール事業」を進めていく。 さらに、地域とともに子どもたちの積極性や自立性、社会性、コミュニケーション力を育めるよう「学ぶ楽しさ日本一」の実現を目指すため、多様な子どもたちのニーズ等に対応する支援員の知識を養うための人材育成や、新型コロナウイルス感染症の影響による収入減など経済的負担が増えた世帯調査や利用者負担の見直しを図り、一定の条件の世帯への利用料の減免等の検討も必要である。

放課後子ども教室事業

担当課	体育青少年課												
事業内容・実施状況等	市内3校区(湊・辰美・志知)において、すべての児童(1年生から6年生)を対象として、市内地域の方の協力を得ながら、異年齢による工作・楽器演奏・スポーツ等様々な体験プログラムや交流・遊び等を通し、子どもたちが安全で健やかに過ごせる居場所を提供した。												
成果・課題 及び 今後の対応等	【成果】 コロナ禍において、感染症対策を徹底した上で、安心安全な環境体制を整えながら、志知教室では、週3回、湊教室及び辰美教室では、週2回の活動を実施し、そのうち辰美教室では、月に1回程度、辰美学童保育との一体型運営を実施した。 <table><tr><td>比 較</td><td>令和2年度</td><td>令和3年度</td><td>増 減</td></tr><tr><td>総開催数</td><td>235回</td><td>266回</td><td>↑31回</td></tr><tr><td>のべ参加人数</td><td>3,905人</td><td>4,138人</td><td>↑233人</td></tr></table> 【課題】 事業に対する補助金が毎年削減されているため、事業拡大するほど一般財源の負担割合が大きくなる。一方で、放課後児童クラブ(学童保育)と放課後子ども教室の両事業を融合したアフタースクール事業への拡大を図るため、事業に参画するスタッフの確保を継続して行う必要がある。	比 較	令和2年度	令和3年度	増 減	総開催数	235回	266回	↑31回	のべ参加人数	3,905人	4,138人	↑233人
比 較	令和2年度	令和3年度	増 減										
総開催数	235回	266回	↑31回										
のべ参加人数	3,905人	4,138人	↑233人										

サマースクール事業

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	市内の子どもたちを対象に、地域の多様な経験や技能を持つ人材等の協力により、長期休暇に体験プログラムを計画・実施し、青少年の健全育成を図る。
成果・課題 及び 今後の対応等	【成果】 長期休暇ならではの野外プログラムや体験学習、継続的なプログラムを実施することで、子どもたちに経験の場を提供し世代間交流を促すことが目的であるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、規模を縮小して予定していたサマースクール事業(やまの学園等)が兵庫県まん延防止等重点措置及び緊急事態措置の実施期間に加え、台風等の警報により中止したことから、秋以降に契約した県の委託事業「地域連携スキルアッププログラム事業」のみの実施となった。 県委託事業では、タブレットを活用したプログラミングによるアプリ制作やドローンを活用したプログラミング体験として、「島ラボ」を企画実施した。沼島小学校1年生から6年生の児童を対象に、プログラマーである地元住民を講師として児童が普段学校で使用しているタブレットを活用してアプリを制作し、発表の機会を設けた。また、ドローンを活用したプログラミング体験やZoomにより市内アフタースクール事業参加児童とのオンライン交流をするなど、離島のへき地環境に先進的ICT環境を投入することで、プログラミング思考を養い、コミュニケーション力、表現力、論理的思考力の養成や地元に対する気づきの機会や魅力を発信するなど「伝える力」を学ぶ場を提供できた。 〔参加人数〕 島ラボ 92人 (12/15、12/22、1/12、1/26、2/9、2/16、3/2、3/3、3/4) 【課題】 新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を徹底しながら、中央公民館主催のわんぱく塾事業の体験活動内容と調整しながら事業を実施し、スタッフの人材確保を継続して行う必要がある。

地域学校協働連携事業

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	学校と地域が一体となって子ども達の成長を支えるため、地域住民に学校支援ボランティアとして協力をお願いし、市内小中学校の各種授業や学校行事等の運営を支援している。
成果・課題 及び 今後の対応等	【成果】 校外学習(町探検)の引率、校内マラソン大会の安全管理、小学1年生の下校時の見守り引率、家庭科授業での製作補助(エプロン、ナップザック等)、交通安全教室の補助に加え、自然学校でのカッター訓練の補助、図書室での本の登録やバーコード貼り、ブックカバー付けなど学校における人手不足のための依頼に対する支援を行った。また、ボランティアの確保や活動を広く周知するため、ボランティアが必要な小学校区に募集チラシや活動状況のチラシを配布した。新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった活動があり、13校の小中学校において、47回の活動となり、令和2年度より減少した。新たに2人のボランティアの登録があった。 【課題】 引き続き、各地域、校区で活動可能な新たな地域ボランティアの確保に向けて、活動を広く周知することが必要であるとともに、地域に根差した市民交流センターと協力しながら地域と学校が連携・協働する体制を構築していく必要がある。

青少年育成センター事業

担当課	体育青少年課								
事業内容・実施状況等	青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の適切な実施をするため各種団体の長、関係機関が集まり、青少年問題協議会を設置。令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった青少年健全育成市民会議は、参集規模を縮小し、南あわじ子育てネットワーク推進協議会と共に開催した。 また、青少年補導委員による街頭補導活動の充実、「地域のおじさん・おばさん運動」の推進、学校・地域・関係機関との連携強化を図る活動を展開した。 南あわじ市スマホ・ネット推進委員会を開催し、市内小中学校の全児童生徒に南あわじ市スマホルール等の啓発リーフレットを配布した。								
成果・課題 及び 今後の対応等	【成果】 年間を通して、市内各地区の青少年補導委員による一斉街頭補導活動や「地域のおじさんおばさん運動」等を継続することで、青少年を有害な環境から守り、非行を未然に防止するものとなっている。 <table border="0"> <tr> <td>(1)青少年健全育成市民会議</td><td>開催(参加者約150人)</td></tr> <tr> <td>(2)補導委員活動</td><td></td></tr> <tr> <td>・活動回数</td><td>88回</td></tr> <tr> <td>・活動延べ人数</td><td>384人</td></tr> </table> 【課題】 スマホ・ネット(スマートフォン・インターネット)の利用に関して、青少年を犯罪から未然に防ぐため、ネット利用の危険性や家庭内でのルール作りなど必要な情報を提供してきたが、今後さらに関係機関・団体等と情報の共有、連携を図りながら、より巧妙になる犯罪の手口から青少年を守っていくため、適切な利用の啓発活動を展開し、周知を図ることが必要となっている。	(1)青少年健全育成市民会議	開催(参加者約150人)	(2)補導委員活動		・活動回数	88回	・活動延べ人数	384人
(1)青少年健全育成市民会議	開催(参加者約150人)								
(2)補導委員活動									
・活動回数	88回								
・活動延べ人数	384人								

基本的方向5 人権文化をすすめるまちづくり

【重点目標】	【主な取組】
ア 人権教育の推進	① 人権教育基本方針の策定 ② 人権学習会、研修会の開催 ③ 市人権教育研究協議会との連携
イ 人権を身近な課題とするための啓発活動	① 啓発冊子「気づきタウン」の活用 ② 人権啓発フェスティバル等の開催 ③ インターネットモニタリング事業

人権教育基本方針の策定

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	市総合計画の施策に基づき、人権文化に満たされたまちづくりの実現をめざして、教育委員会と人権教育研究協議会が連携し、学校・家庭・地域・職場等あらゆる場において、人権教育・啓発に取り組んできた。 また、社会情勢の変化による新しい課題に対応し、これまでの取組を整備するとともに、市職員及び教職員がその責務を自覚し、人権文化に満たされたまちづくりを先導し、市民にも働きかけていくために「南あわじ市人権教育基本方針」を策定した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 人権教育基本方針では、人権教育の目標を「確かな人権意識と実践力をもった人づくり」とし、4つの側面（目的、機会、環境、内容）から目標達成を図ることを明確に示した。学校・家庭・地域・職場等の現状を分析し、課題を明らかにするとともに、今後の取組内容を具体的に示した。また、本市の状況やこれまでの取組の過程を踏まえ、8つの重点項目を設定した。 人権文化に満たされたまちづくりを進めるにあたり、市職員及び教職員の果たす責務を明確にし、これまで取り組んできた研修の目的、内容、方法等の見直し及び改善を行った。 【課題】 市職員が市民の人権を守るための認識を育む研修を充実させるため、総務課、市民協働課、社会教育課が協働して、内容・方法等について検討していく。また、差別事象に応じた「対応マニュアル」を作成し、全職員で共通理解できる体制を整える。 教職員が児童生徒の人権を守り育てる教育実践力を向上させるため、キャリアステージに応じた系統的・計画的に研修を実施する。また、子どもたちの人権が守られる学校環境をつくる協働体制の構築に取り組む。

人権学習会、研修会の開催

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	(1)地区別人権学習会 身近な生活の場において、解決すべき人権問題があることに気づき、部落差別をはじめとしたさまざまな人権問題の解決に向けた学習活動を実施した。 (2)人権学習講座 差別解消三法の施行により、教育・啓発が地方公共団体の責務となっていることから、法律の内容を知り、私たちにできることを考える講座やSNS等によるインターネット上での人権侵害の被害者にも加害者にもならないための講座を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 人権問題が多様化、複雑化している中、人権に関する正しい理解と認識を深めるために「気づこう！まなぼう！ともに歩こう！」をスローガンに、身近な人権問題に気づくことから始められるように人権学習会を実施した。 地区別学習会では、令和3年度は、「超高齢化社会とひきこもり(8050問題)」を重点テーマとし、DVD「カンパニユラの夢」を活用して人権問題の認識を深めた。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴う、偏見や差別について、マスコミ等で放送されている問題を取り上げ、偏見や差別解消に取り組んだ。 差別解消三法の施行や、急激な情報化社会の進化による新たな課題に取り組むために、市職員研修をはじめとする人権研修会を実施し、法律の理解やSNS等の差別事象の現状を理解し、対応の必要性を学んだ。 【課題】 市民の意識の中には、依然として人権学習は難しい、堅苦しいといった意識がある。人権研修会においては、市民に身近な話題を提供し、自分たちに何ができるかを考え、行動を促すことが必要である。 新型コロナウイルス感染拡大防止により、予定していたすべての活動ができただけではないが、感染予防対策を十分とったうえで、地区公民館6か所、保育所2か所で実施した。 新型コロナウイルス感染拡大による不安から広がる偏見や差別などが顕在化したり、インターネット上の差別が拡大している現状があるように、社会的課題の多様化に伴い、人権課題も多様な観点からとらえ、幅広い年齢層に対し、研修を継続的に実施していかなければならない。



市人権教育研究協議会との連携

担当課	学校教育課・社会教育課
事業内容・実施状況等	学校教育課と南あわじ市人権教育研究協議会が連携して、南あわじ市で育った子ども達が、確かな人権意識をもち、毅然と行動できる人間として社会に出ていくことができるように、小学校1年生から中学校3年生まで、すべての学校が共通したプログラムのもと教育活動を展開する「道徳教育と人権教育研究プロジェクト」を実施した。また、南あわじ市人権教育研究協議会と連携した会議や研修会等に小中学校の教職員が参加して研修を深めた。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 「道徳教育と人権教育研究プロジェクト」の授業研究会について、小学校1、2年生を北阿万小学校で、小学校3、4年生を松帆小学校で、小学校5、6年生を八木小学校で、中学校1から3年生を沼島中学校で実施した。コロナ禍での実施となり、参加者の規模は縮小したが、南あわじ市人権教育研究協議会と連携した研修会や講演会によって教材研究や指導案検討が充実したものとなった。コロナ禍でなければ、幼保が小学校低学年の授業参観を、小学校高学年が中学校の授業参観を、中学校が小学校高学年の授業参観を、高校が中学校の授業参観をし、連携を図っている。また、令和2年度は兵庫県人権教育研究大会淡路地区大会の講演会がオンラインになるなどとコロナ禍の中で可能な形態での参加となった。 【課題】 多様性や新型コロナウイルス感染症に起因する人権侵害、スマートフォンなどによるインターネット上における人権侵害などの新たな人権課題の解決に向け、「道徳教育と人権教育研究プロジェクト」のブラッシュアップを継続しながら小中学校と南あわじ市人権教育研究協議会との連携をさらに深め、教育活動を展開していく必要がある。また、兵庫県人権教育研究大会淡路地区大会等の研究大会で学んだことを、市内でさらに周知していく工夫もさらに必要である。



啓発冊子「気づきタウン」の活用

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	人権問題が多様化、複雑化している現代社会において、人権に関する正しい理解と認識を深めるために、身近な人権問題に気づくことから始める冊子「気づきタウン」を活用して啓発をおこなう。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 令和2年度に、項目に高齢者問題、性的指向・性自認、感染症差別、SDGsを追加し、市民が手に取り、読みやすい冊子となるよう改訂した「気づきタウン」を、より多くの市民に読んでいただけるよう、人権学習会や各種イベントで配布した。また、学校教材として活用していただけるよう、市内の小学5年生、6年生に配布した。 【課題】 令和4年3月に策定された「南あわじ市人権基本方針」をもとに、「気づきタウン」の改定を検討する。また、「南あわじ市人権基本方針」を周知できるように配布していく。



人権啓発フェスティバル等の開催

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	人と人との温かくふれあい、つながりの輪を広めることを目的に、8月の人権文化をすすめる県民運動推進強調月間、12月の人権週間に合わせ、人権フェスティバルを開催し、啓発活動を推進した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 8月の人権文化をすすめる県民運動推進強調月間にあわせて、じんけんサマーフェスティバルを開催し、テレビ番組「行列の出来る法律相談所」にレギュラー出演し、幅広く活躍されている、菊地幸夫弁護士を講師に招き、講演会「人を許す時が自分を高める時」などを行った。また、12月の人権週間中の人権フェスティバルでは人権作文の表彰式と代表者による朗読を行い、子ども達の作文を通じて、多様な人権文化を学ぶきっかけを作った。令和3年度は、8月は、緊急事態宣言の発令により、午前中に予定していたイベントの「野菜クイズ」「迷路で学ぶSDGs」「バルーンアート、折り紙」は中止し、ウォーターアートパフォーマンスは、オンライン配信に変更して実施した。12月は、子どもの発表者の制限等を行うなどの対策をとって実施した。 【課題】 人権文化をすすめるまちづくりを推進するためには、継続的な啓発事業が必要である。フェスティバルは、身近な話題で人権問題に向き合えるように工夫し、一定の成果を得ている。令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ハイブリッド形式による新たな講演会スタイルでも行った。ライブ、オンラインの啓発効果は、それぞれ一長一短あり、今後は、それぞれの特性を生かしたアフターコロナの啓発方法を模索し、多様な人権課題を啓発するため、臨機応変に取り組む必要がある。



インターネットモニタリング事業

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	インターネット上の差別書き込み等の差別事象に対して、拡散防止、初動体制の確立、書き込み等の抑止を図るため、インターネットモニタリングを令和3年10月から週2回継続的に実施した。 実施にあたり、インターネットモニタリング用パソコン等を購入し、安全に安心して、インターネットモニタリングが実行できる環境を整えた。 インターネットモニタリング実施者研修を実施し、効果的なインターネットモニタリングの方法を学んだ。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 インターネットモニタリングの研修を実施し、インターネットモニタリングを複数部署が協力して継続的に取り組んだことにより、インターネット上の差別的書き込みを30数件認知し、削除要件を満たす書き込み等に対し、削除要請を行い、削除に至った事例もあった。 【課題】 インターネット上には、人権に関わる悪質な書き込み等が年々増加している。モニタリングにより、市の実情を把握し、書き込みを抑止するための啓発事業を進める必要がある。 また、インターネット上の人権侵害が発見された場合は、人権相談等行動連携会議と連携しながら取り組んでいく必要がある。

基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

基本的方向1 主体的に生きるための学びと場の充実

基本的方向2 伝統文化(芸術)の伝承と発展

基本的方向3 スポーツに親しむ環境づくり

基本的方向1

主体的に生きるための学びと場の充実

【重点目標】

【主な取組】

ア 学びの充実

- ① アフタースクール事業
- ② 夢プロジェクト
- ③ 淡路三原高等学校魅力づくり支援事業



イ 社会教育施設の充実

- ① 社会教育施設の整備
- ② 展覧会事業や関連事業の開催
- ③ 資料の保存、管理
- ④ 図書館資料の充実

アフタースクール事業

担当課

体育青少年課

事業内容・実施状況等

放課後の時間において、子どもが自ら考え主体的に行動し、判断できる力やコミュニケーション能力の向上、ふるさとをよりよく知り、誇りに思う心を育てることを目的に、放課後児童クラブ(学童保育)と放課後子ども教室の両事業を融合したアフタースクール事業を実施。安心安全な環境を確保するとともに、「まちの先生」といった地域の人材を活用しながら、遊びの中に学習・体験・スポーツ・文化等の各種体験プログラムを取り入れることで、子どもたち自身が自ら選択し、興味・関心や夢を持ち、「なりたい自分を見つけることができる」居場所を提供し、「学ぶ楽しさ日本一」の実現を目指す。

成果・課題
及び
今後の対応等

【成果】 感染予防対策を徹底した上で、専門講師やまちの先生、団体による多種多様な体験プログラムを実施し、学ぶ楽しさを感じるきっかけづくりを提供した。八木・広田・湊に加え、倭文・阿万では学童保育利用児童ヘフラダンスやスポーツ、書道、英語などの体験プログラムの充実を図った。また、全体的に講師によるプログラミングやダンス、動画編集、将棋、そろばんなどの継続プログラムや、団体による卓球バレーやボッチャ等のユニバーサルスポーツ等、参天製薬によるブラインドチャレンジ、不二製油(株)の食育プログラムや住友生命の和太鼓プログラム等の企業プログラムのほか、地域の方を講師とした「まちの先生」の募集を行い、各拠点において、まちの先生によるウクレレ、バードウォッチング、エブロンシアター、プログラムを実施し、日々のプログラムの充実を図ることができた。さらに、令和2年度に引き続き、非営利特定法人(放課後NPOアフタースクール)に運営支援を委託し、スタッフの人材育成、プログラムの発掘、企業プログラムの紹介や実施補助などのサポートもあり、今後の事業拡大に向けての準備や体制づくりに努めた。

比 較	令和2年度	令和3年度	増 減
プログラム総開催数	342回	813回	↑ 471回
のべ参加人数	5,984人	12,202人	↑ 6,218人
実施校区	3校	5校	↑ 2校

【課題】 新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、学校等の施設を活用しつつ、事業拡大に向けて、体験会の実施や活動紹介といった市民への周知が必要である。また、多様な活動に対応できる事業スタッフの確保及び人材育成のため研修開催のほか、子育てしやすい環境の更なる創造のため、新型コロナウイルス感染症の影響による収入減など経済的負担が増えた世帯調査や利用者負担の見直しをはかり、一定の条件の世帯への利用料の減免等の検討も必要である。

基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

基本的方向1 主体的に生きるための学びの場の充実



創作書道（ダンスとコラボ）



卓球バレー



フラダンス



そろばん



バードウォッチング



ブラインドチャレンジ



オンライン将棋



動画編集



和太鼓

夢プロジェクト

22ページにも記載

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	小中学生を対象に、著名なスポーツ選手・文化人等を講師として招き、スポーツや文化の魅力や楽しさ、努力することの大切さを感じてもらうとともに、また友達を大切にする心を育み、大きな夢を持って今後の活動と豊かな生活を送ってもらうことを目的に実施した。 派遣学校 中学校 1校(倭文中) ※三原中・広田中は中止 小学校 4校(神代小・賀集小・福良小・北阿万小)
成果・課題 及び 今後の対応等	【成果】 小学校4校と中学校1校に対し、著名なスポーツ選手・文化人を講師として派遣した。学校からは、講演での印象的で勇気づけられる言葉や迫力のある実技を見てその刺激を受け、子ども達が将来の夢に向かって前向きに取り組もうとする良いきっかけになったなどの感想があった。また子ども達も「あきらめずにがんばる。」「コツコツと努力してがんばる。」などの感想もあり、夢プロジェクトとして子ども達の豊かな心を育む良い機会を提供できた。三原中学校と広田中学校は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で中止となった。また、これまで協力いただいたスポーツ選手や文化人からの応援メッセージで子ども達を含め多くの市民が勇気づけられた。 (1)講師 バレーボール (倭文中) 狩野舞子、斎藤真由美、益子直美 バレエ (神代小) 針山愛美、クリスタップス・リンティンシュ チアリーディング (賀集小) 梅花女子大学チアリーディング部 陸上 (福良小) 秋本真吾、鷲野哲平 ダブルダッチ (北阿万小) 竹内友理奈、大西 愛、牧島一輝 (2)特別企画 ・Vリーグ大会観戦並びにバレーボール教室 開催日: 令和3年11月20日(土)、21日(日) 場 所: 文化体育館 内 容: 2021-22 V.LEAGUE division2 兵庫・南あわじ大会観戦 兵庫デルフィーノとの記念撮影会 バレーボール教室 ※新型コロナウイルス感染予防の為中止 講 師: Vリーグチーム6チーム 兵庫デルフィーノ、トヨタ自動車、ヴィアティン三重、 クボタスピアーズ、サフィール北海道、きんでん ・少年野球教室 開催日: 令和3年12月5日(日) 場 所: 三原健康広場 グラウンド 講 師: オリックス・バファローズ選手 近藤大亮、山田修義、阿部翔太、K-鈴木、山岡泰輔、 福田周平、杉本裕太郎 【課題】 学校や子ども達のニーズに応じた講師を限られた予算内で依頼することや学校との日程調整等に課題がある。



Vリーグ大会観戦並びにバレーボール教室
(文化体育館)



陸上（福良小）



バレエ（神代小）



チアリーディング（賀集小）



ダブルダッチ（北阿万小）



バレー（倭文中）



少年野球教室（三原健康広場）



淡路三原高等学校魅力づくり支援事業

担当課	教育総務課 ・ 体育青少年課
事業内容・実施状況等	淡路三原高等学校では、令和3年3月に締結した、南あわじ市、淡路三原高等学校、淡路景観園芸学校、国立淡路青少年交流の家との「南あわじ市の地域創生にかかる包括連携協定」を効果的に活用することにより、3年間の「総合的な探究の時間」で社会の仕組みや地域の魅力・課題を知るとともに、分析・提案をする。市の事業などに高校生が参画することで、淡路三原高等学校の新たな魅力を発信するべく生徒の主体的な取り組みを活性化し、南あわじ市の地域振興や課題解決につながる活動を行っている。 また、市内唯一の高等学校で行っているこれらの活動は、将来の南あわじ市の持続的な発展に寄与できる人材育成へとつながる取組であるため、教育委員会として支援を行う。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 淡路三原高等学校では、市役所訪問や市職員の講義等により市の事業内容や課題等といった意見を直接聞く機会を設け、市の特色や課題について生徒に問題意識を持たせることができた。また、淡路景観園芸学校から講師を招き、南あわじ市における課題提案型として生徒自身が今後取り組むテーマについての理解を深めた。さらに、「地域における課題の発見とその解決に向けて」をテーマとして21班に分かれて探究活動を行い、代表6班が市長を招いてプレゼンテーションによる発表を行った。教育委員会では、包括連携協定における4者間の調整を担い、令和3年度以降の活動促進へ道筋をつける支援を行った。 【課題】 淡路三原高等学校では、実際に課題を抱えている地域拠点の視察や現地での意見聴取等、地域の中に活動範囲を広げることで、地域との結びつきを強め、地域の現状をより深く理解できる取組をめざしているが、生徒の移動に係る交通費等、経費面の課題がある。また、成果発表を校外へ広げていくための方法も検討していく必要がある。

基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

基本的方向1 主体的に生きるため

社会教育施設の整備

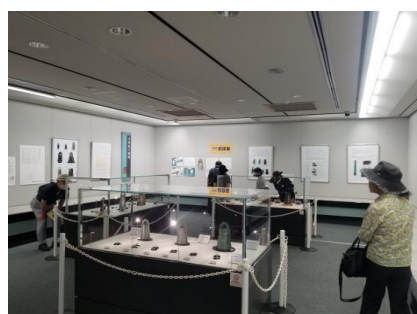
担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	市内の社会教育施設の長寿命化を含めた計画的かつ効果的に、公共施設等総合管理計画に基づいた個別施設管理計画を策定し、各施設の修繕等を実施しながら維持管理を行う。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 個別施設整備計画を策定した。 令和3年度は、市立図書館特定天井等改修工事及び玉青館トイレ洋式化工事を行った。 【課題】 個別施設整備計画を策定したが、すべての施設が老朽化しており、いつ修繕が必要になるかわからない状況であり、今後施設の長寿命化を見据え、トータル的な施設整備計画を考える必要がある。

展覧会事業や関連事業の開催

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	美術館では、松帆銅鐸に関連した特別展や郷土の歴史遺産を活用した展示、優れた美術品等の展覧会を計画的に企画し開催する。 また、松帆銅鐸の常設展示に伴い、青銅器の鑄造体験や消しゴム作り等体験型ワークショップやVR(仮想現実)コンテンツを活用し、幅広い世代が楽しみながら学習できる機会を充実させる。 資料館では、淡路人形浄瑠璃の展示を基本として、コアカリキュラムに対応し、小中学生にあわせた内容や淡路人形浄瑠璃後継者団体の活動等の企画展を開催する。また、故鶴澤友路師匠に関する資料や郷土にゆかりのある書画等の展覧会を企画し、幅広い世代が学ぶことのできる事業を展開する。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 美術館では、保存処理を終えた松帆銅鐸や文化財資料の常設展示室が2階にオープンしたことによって、歴史に関心のある今までと異なった客層が増加した。また、多彩なワークショップを開催することができた。 資料館では、人間国宝鶴澤友路の旧蔵資料寄託記念特別展、淡路人形名場面の展示、淡路三原高等学校郷土部展を行い、淡路人形浄瑠璃の啓発活動と郷土への誇りを持てる展示をすることができた。 【課題】 美術館では、今まで2階展示室で絵画の特別展を行っていたが、松帆銅鐸展示室に改修したため、絵画の特別展を開催することが厳しくなった。 資料館では、コロナ禍による休館で展示が中止となり、島外及び地元からの集客を思うように図れなかった。今後も引き続き、展示のパンフレットを作成して広報活動にも力を入れていく。

資料の保存、管理

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	美術館では、故直原玉青画伯に関する資料及び美術資料並びに松帆銅鐸を中心とした貴重な文化財資料の保存管理を行う。 資料館では、淡路人形浄瑠璃に関する資料及び貴重な郷土資料の保存管理を行う。文書及び写真資料のデジタル化等の新しい手法についても研究していく。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 美術館では、令和3年度から松帆銅鐸1・3・4・7号の4点を展示し、環境調査を行いながら、金属器に適した環境で展示公開、管理を行っている。奈良文化財研究所で調査中であった松帆2・5・6号の保存処理も完了し、すべての銅鐸が館の保管となった。美術資料についても、温湿度の確認や収蔵庫の燻蒸作業を行うなど、適正な管理を行っている。資料館では、収蔵品害虫駆除・防カビ殺菌のために燻蒸実施することができた。寄贈と寄託の床本の整理と故鶴澤友路師匠の寄託資料(床本・レコード・カセットテープ・オープンリール・CD・ビデオ・本・番付表・パンフレットなど)の調査を大阪市立大学の先生の協力を得て、令和3年度の目録作成に向け準備を進めている。 【課題】 美術館では、収蔵庫の空きスペースが少ないため、今後寄贈や寄附があった場合に、作品の大きさによっては受け入れが困難である。施設の老朽化が進んでいることから、改修計画を立て、2階松帆銅鐸展示室を重要文化財の展示に適した展示室へと改修するため、令和4年度には実施設計する。 資料館では、寄贈・寄託の資料の量が多く、データ化できずにいたが、今後は友路師匠の音源などをデータ化し、淡路人形座や後継者団体の部員の稽古への活用や、小中学校におけるコアカリキュラムの授業教材としての活用も検討したい。



図書館資料の充実

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	市立図書館と中央・広田・湊公民館図書室の4箇所連携を強化し、課題の解決や効果的な施設の管理運営を図るとともに蔵書の充実や利用者サービス向上により読書活動を推進する。季節の話題や時事問題を絡めた利用者の興味をひくおすすめ図書コーナーの充実、ボランティアによる絵本の読み聞かせ・ブックスタート事業を行い、幼少期から図書にふれあう機会の増加を図る。また、沼島小中学校に定期的に配本を行い、読書に親しめる機会を広げる。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 蔵書数309,346冊で微減。しかし、コロナ禍と図書館の大規模改修工事の中、1館3室の連携の強化により年間貸出冊数は173,122冊(前年度比17%増)貸出利用人数は延べ41,623人(前年度比14%増)と健闘したといえる。感染防止の徹底や図書館大規模工事による影響を最小限度とし、利用者サービスの低下を防ぐことができた。 読み聞かせ会、おはなし会やブックスタート事業も可能な限り実施した。さらに市民交流センターでの図書貸出、返却サービスも軌道にのり、市民がさらに幅広く読書に親しむ機会を提供することができた。図書館が読書活動推進の拠点として機能するよう今後も努めていく。 【課題】 図書館サービスの根幹である蔵書の収集・保存・提供を充実するため、市民の学習活動の支援や読書活動に役立つ資料の収集、選書、利用者へのサービスの充実が一層必要となる。そのためには、図書館、図書室のより一層の連携強化が不可欠であり、多様性の求められる時代に何が必要かを的確に判断し、読書活動の一層の推進を図っていく。

基本的方向2

伝統文化（芸術）の伝承と発展

【重点目標】

【主な取組】

ア 体験を通して学ぶ伝統文化（芸術）の伝承と発展

- ① 子ども伝統芸能発表会
- ② 淡路人形浄瑠璃の保存伝承と振興
- ③ 南あわじ音楽祭

イ 文化財の保存と活用

- ① 歴史文化遺産の保存、整備と活用
- ② 淡路島古代フェスティバルの開催
- ③ 松帆銅鐸の調査研究、活用



子ども伝統芸能発表会

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	伝統文化の継承と市民の関心を深めるために、市内の小学校・各地区の伝統芸能保存団体等の子ども達による発表会を実施する。子ども達の郷土の歴史、伝統、文化に対する関心や理解を深めるとともに、それらを尊重する態度や豊かな人間性を育む。また、各小学校・各地域の垣根を越えた子ども達の交流を行い、南あわじ市の伝統文化を守る次世代を育成する。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 出演希望のあった団体を中心に実施に向けて準備を行っていたが、開催直前になり新型コロナウイルス感染症が市内で急速に感染拡大したためやむを得ず中止とした。 【課題】 昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、一部の伝統芸能については年間を通して練習ができない状況が続いている。発表会に向けての練習で上級生から下級生に教える機会が失われるなど、伝統芸能の継承にも影響が出ることが考えられるため、伝統芸能を発信する場や保存団体の交流の場の確保が引き続き課題となる。

淡路人形浄瑠璃の保存伝承と振興

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	国指定重要無形民俗文化財「淡路人形浄瑠璃」の保存団体（公財）淡路人形協会への支援を継続するとともに、保存伝承や若い世代の関心を高めるため、兵庫県内の小学生が淡路人形座で鑑賞し、その魅力を体験するために必要な経費の一部を助成する。また、淡路人形浄瑠璃の保存伝承活動を振興するため、人形劇の友・友好都市国際協会（AVIAMA）に加盟の都市間で相互に文化交流を行い、市民の人形浄瑠璃に対する意識の高揚を目指す。また、淡路人形浄瑠璃体験教室事業補助金により、淡路人形浄瑠璃を多くの児童・生徒が鑑賞できる機会を創出した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 淡路人形浄瑠璃体験教室事業では、16団体779名の利用があり、昨年に比べて2団体214名の増となった。また、人形劇の友・友好都市国際協会（AVIAMA）に加盟の都市間での文化交流はWeb会議で意見交換会を2回行ったのみとなった。 【課題】 郷土芸能の保存伝承については、小・中学校等との連携を図りながら、後継者育成に取り組んでいるが、社会体育や文化活動への参加など多様化し、減退傾向にあるとともに、後継者不足・指導者不足といった課題を抱える団体が増加している。伝統芸能の保存伝承活動のためには、伝統芸能を体験できる機会を増やし、伝統芸能の魅力を周知していく必要がある。また、保存団体間の交流の場を作り、情報交換をする必要がある。

南あわじ音楽祭

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	市民の参画により、一流の音楽に触れることができる音楽祭や、音楽をはじめ広く文化活動をしている個人や団体が参加できるイベントを行う。また、コロナ禍により延期されている第10回音楽祭を目途に、新たな担い手を迎え入れられるよう努める。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 予約方法を一新する等、感染対策を講じながら南あわじ音楽祭の実施を計画していたが、開催直前になり淡路島内で急速に新型コロナウイルス感染症が拡大したため、事業を中止した。 【課題】 コロナ禍において、より多くの市民が音楽に親しめる機会を創出することが課題である。従来の音楽祭事業の形で実施することは難しく、引き続き新たな企画の立案・実施が必要である。

歴史文化遺産の保存、整備と活用

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	定期的に、文化財保護審議会を開催し、市内に点在する指定文化財等の適正な保存・保護、また新しい文化財の指定等の審議を行う。 慶野松原保存整備委員会において、名勝としての適正な保存管理等を審議し、白砂青松の景観維持に努める。また、次世代へ慶野松原のすばらしさを語り継げるような活用に務める。 ほ場整備等の開発事業に伴う埋蔵文化財調査を適正に行い、その保護に努める。 調査成果については、公民館等での速報展やパンフレット配布により、一般公開し、郷土歴史の学びの場、文化財に触れられる機会を提供する。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 現在まで検討されていた市指定候補8件の内、2件が審査会の慎重な審議により市指定を受けることができた。また国指定名勝慶野松原においては、保存整備計画に基づき、適正な保全を行い、白砂青松の景観維持に努めることができた。また、学習イベントの実施により、慶野松原の良さを知っていただくことができた。文化財調査においては、文化財保護法の基、ほ場整備事業など開発事業に伴い、埋蔵文化財調査を引き続き実施し、適切に発掘調査を完了することができた。また埋蔵文化財調査で出土した遺物や写真記録の展示会を開催し、一般の市民に調査成果を公開することができた。 【課題】 市内には多数の文化財が存在し、今後、適正な保存管理のため、よりきめ細かな状況把握に努め、計画的な保存・管理対策を講じていく必要がある。 市民講座及び学習イベントの開催や文化財の活用により、多くの人に文化財の魅力を身近に感じてもらえるような事業を展開していくことが必要である。併せて、市内に点在する淡路島日本遺産の構成文化財を有効活用し、多くの人に魅力を届ける必要がある。 また、ほ場整備など開発面積の増加により、出土遺物量が急増しており、資料整理と調査成果の資料作成時間が不足しつつあるため、計画的に業務を行い、保護に努める必要がある。

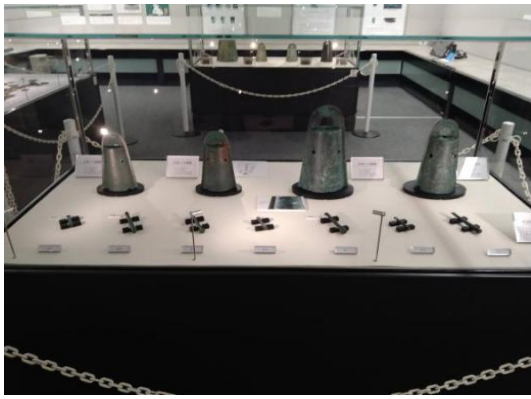
基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

淡路島古代フェスティバルの開催

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	松帆銅鐸の発見を機に開催している。今後も幅広い年齢層が楽しめるイベントとして、勾玉作り、ミニチュア青銅器の鑄造体験、バッジ作り、VR体験等のワークショップでの体験を通じ、淡路島の歴史を直接肌で感じてもらえるよう内容の充実を図る。 また、歴史を活かしたまちづくり実行委員会との連携を深め、市民や企業が企画開発した活動を展開し、官民一体となり、郷土愛を育む。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 緊急事態宣言のためやむを得ず中止となり、活動の方向性の転換を図った。一度に多くの人を集めるのではなく、少人数のイベントを数多く開催した結果、延べ参加者数が増え、講師と参加者が関わる時間が増えるなど満足度の向上が見られた。 【課題】 安心して参加でき、ファミリー層や若者女性層など幅広い層に向けた事業を展開し、認知度を上げていきたい。

松帆銅鐸の調査研究、活用

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	松帆銅鐸の調査研究による成果を、研究機関や専門家等に情報提供し、これまでの銅鐸研究に反映し活用することで、南あわじ市の歴史をひもとく学習活動の機運を高める。 令和2年度以降、順次、松帆銅鐸の一般公開に伴う展覧会事業を実施するとともに、今後、淡路島日本遺産とも関連づけながら、他地域の銅鐸との比較や弥生時代の青銅器をテーマにした市民講座や講演会等を開催し、すべての銅鐸が揃うまでの期待を途切れさせない工夫を行うように努める。 銅鐸が多数出土し、淡路島同様の国生みに関わる神話をもつ出雲との「弥生ブロンズネットワーク」や他の銅鐸出土地とのネットワーク形成、青銅器に関するシンポジウム等で古代イベントを行う自治体や団体との交流を促進し、銅鐸を含む青銅器の周知を図っていくと同時に、市内の歴史文化遺産を活用する。 銅鐸をはじめとする市内出土の青銅器ミニチュア鑄造体験、消しゴム作り等、子どもから大人まで楽しめるワークショップをさらに充実するとともに、解説やワークショップに関わるボランティア（人材）の育成を図り、市内外で行うイベント等に参加し、学習と体験を通じて、「青銅器といえば南あわじ市」となるよう、青銅器への関心や知識の向上を図る。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 松帆銅鐸調査報告書は反響は大きく完売となっている。また、国指定をめざし、文化庁と協議をしながら松帆銅鐸展示室を開設したことで、専門知識がなくとも銅鐸や市の歴史への理解の一助になった。また、市HP内に市内歴史文化遺産の検索サイトを構築し、小中学校でのタブレット端末での学習に対応しており、子どもたちにとってよりよい学習環境を構築し、南あわじ市の歴史の魅力の情報発信を行うことができた。 【課題】 コロナ禍であったこともあり、公民館や小学校などで開催する出前講座の件数が少なくなった。分かりやすいイラストや身近な遺跡を取り入れ、積極的に学校や市民交流センターに開催を呼びかけたい。



基本的方向3

スポーツに親しむ環境づくり

【重点目標】

【主な取組】

ア 生涯スポーツ等の推進

- ① 市民スポーツの振興
- ② 体育協会主催大会の開催

イ 社会体育施設・設備の環境整備

- ① 温水プール運営事業
- ② スポーツ施設の適正管理
- ③ 学校施設の開放事業

市民スポーツの振興

担当課

体育青少年課

事業内容・
実施状況等

新型コロナウイルス感染症の影響で当市で開催予定だった東京2020オリンピック聖火リレーが中止となったものの、オリンピック・パラリンピックを通してスポーツ活動への関心や機運の高まりから、市民スポーツの核となる社会体育施設・学校体育施設の利用を市民に促し、スポーツ活動の活性化を図った。また、スポーツで地域振興に取り組むスポーツ推進委員の研修会（ポッチャ・囲碁ボール）を開催し、ニュースポーツ体験を各地域で行うなど、市民一人一人が様々な機会を通じて生涯スポーツを実践することにより、健康で、豊かな生活が送れるよう生涯スポーツの振興を図った。

成果・課題
及び
今後の対応等

【成果】 南あわじ市において聖火リレーが通過することがかなわなかったが、県が丹波篠山市で集約し規模縮小した運営に協力し、市のPRに繋げることができた。また歴史的な事業を後世に残し、市民等が身近に感じてもらえるようにモニュメントの設置や巡回展を開催することができた。さらに施設利用において、定期的に継続して利用する団体が増えるなど、地域住民にとって身近なスポーツの活動場所として提供することができた。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、スポーツ活動の機会が例年よりも減少したが、施設の団体利用が中止の場合であっても、子ども達の遊び場として小学校の校庭開放や、また散歩や個人練習等で社会体育施設のグラウンドなどを利用できるように促した。さらに障害者スポーツの普及・推進を図るため、施設利用料の減免基準を設定し、利用促進に繋げることができた。

【課題】 東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を契機に多様なスポーツのニーズに応えるとともに、市民の誰もが生涯にわたってスポーツに親しむことができるよう、スポーツ施設においても安心・安全に活動が行える環境に整備し、利便性を図るとともに、利用者数の増加や維持管理コストの低減をめざす。また、世界的な生涯スポーツの祭典であるワールドマスターズゲームズ2021関西ビーチバレー競技が2022年に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、IMGAsとの協議の結果延期となった。今後は、市民とともに培ってきた機運を絶やさないように普及啓発に努め、生涯スポーツの振興を図りたい。

体育協会主催大会の開催

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、市体協等の主催事業の多くが中止となる中、種目協会主管の大会8回、地区主管の事業4回を開催した。市民の運動する機会を提供するため、スポーツ体験会（ポッチャ、囲碁ボール）を開催した。また、県体育協会の補助事業を活用し、実業団チームでソフトテニスのトップクラスで活躍する東芝姫路ソフトテニスクラブを招き子どもたちを中心とした教室を実施した。個人や団体が気軽にスポーツに取り組めるきっかけと施設利用を促進することを目的に市体育協会のスポーツ備品の無料貸出事業を継続して取り組んだ。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 スポーツ体験会には44名の参加があり、種目協会の競技人口の増加に繋げる普及啓発となり、市民がスポーツに対する関心を高める機会となった。実業団チームを招いたソフトテニス教室では小学生から高校生まで48名が参加し、スキルアップ等を図ることができた。またスポーツ備品貸出事業は1か月で平均30件程度の利用があり、スポーツ施設の利用促進に寄与することができた。さらに市内小学校にポッチャ用具を貸出し、障害者スポーツの理解と活動促進に繋げることができた。 【課題】 新型コロナウイルス感染症の予防対策を行いながら、市民へのスポーツ普及活動を実施する必要がある。各種目協会や地域のニーズを把握し、また事業の精査や事務の効率化をめざし運営方法の改善についても検討する。

温水プール運営事業

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	平成30年度から5年間、(株)エヌ・エス・アイを指定管理者として引き続き管理運営を委託している。自主事業として、幼児から大人までを対象とした水泳教室を開設し、市民の体力向上および健康促進を図るとともに、選手の育成や競技力向上にも取り組み全国大会出場者も輩出している。また、施設設備の経年劣化等に対応するため、ヒートポンプ温水器の更新、駐車場外灯改修工事を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 建設から25年以上経過し、施設および設備の老朽化が進行する中、指定管理者と協議をし計画的に修繕工事を実施したことで、利用者にとって安心・安全な施設づくりをめざすことができた。 【課題】 プールの水温を調節する設備であるヒートポンプ温水機器を順次更新している。6基のうち未更新の3基については耐用年数を経過しており、故障した場合、施設の運営に大きな支障をきたしてしまうことから、今後も年に1基ずつ更新し、早急に整備する必要がある。また、ジャグジー、スライダーなど他の設備の状況も把握し、利用者にとって必要性の高い設備から修繕等を進めていく必要がある。

スポーツ施設の適正管理

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	スポーツ施設の維持管理は、優先順位をつけて施設の整備計画に基づき修繕等を進めることとし、西淡社会教育センター下水道接続工事、南淡B&G海洋センター艇庫浮桟橋等改修工事、文化体育館メインアリーナ空調設備新設工事等を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 施設及び設備の老朽化に伴い、緊急性の高い案件から順に計画的に修繕工事を実施することができた。 【課題】 スポーツ施設の利用実態に応じた施設の適正配置を行うため、個別施設計画を策定し、それをもとに修繕等を進めていく。また、人口減少・少子化等をはじめとする社会情勢の変化、各施設の利用状況等を考慮して、計画の順を変更するなど適正な維持管理を行う必要がある。

学校施設の開放事業

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	学校教育活動に支障がない範囲で市内の学校施設(体育館・グラウンド)を開放し、市民が身近でスポーツ活動を行う場を提供している。新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を実施しながら、利用者が安心・安全に施設を利用することができる環境を整備した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】 新型コロナウイルス感染症予防対策のため、各学校施設に消毒液の設置や名簿管理等の利用条件の遵守を徹底し、利用者が安心・安全に利用することができるようにした。また、経年劣化等に伴うグラウンド照明の維持補修を行った。 【課題】 新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、学校施設の利用中止や利用時間の短縮などの対応を図ったため、利用者数が減少となった。引き続き感染予防対策を行い、市民の健康増進を図りつつ学校施設の利用促進を行う必要がある。

評価委員の意見

南あわじ市教育に関する事務の点検及び評価委員会委員

山 崎 泰 秀

森 健 太 郎

郷 野 祐 佳

全体を通して

- 「第3期南あわじ市教育振興基本計画（令和2年度～令和6年度）」で示されている体系表は誰が見てもわかりやすく理解しやすい。体系表には83の主な取組が掲載されているが、令和2年度に比べ、令和3年度は3項目増えている。取組項目を増やすことによって、職員に過度の負担がかかることのないよう、主要事業を精査していくことも必要ではないか。
- 令和3年度に新しく取り組んだ事業「GIGAスクール構想」「人権教育基本方針の策定」「インターネットモニタリング事業」は変化の激しい時代の流れに対応している教育施策である。
- スマートフォンは便利な機器であるが、個人情報や口座情報などが集約されており、使い方を間違えれば大きなトラブルになる可能性がある。学校においては、スマートフォン等のICT端末に潜む問題や危険を正しく理解し、適切に使用できるように子どもたちを指導していくことがさらに重要になっているため、教育委員会から指導の方向性を示していただきたい。

学校教育について

- GIGAスクール構想事業によって、小中学校では1人1台タブレットが導入されて1年が経過した。その間、タブレットを使って何ができるか、という活用面ばかりに焦点が置かれてきたが、次の段階として振り返りの時間を持つことが大切である。タブレット活用のメリットとデメリットを認識した上でより効果的な活用方法について各学校へ浸透させていただきたい。
また、教職員の活用の習得度にも差があるため、学校現場にICT機器に精通した人材の派遣を検討されたい。
- 教育のICT化が進んでいるが、教育機器に頼りすぎて周囲との関係が希薄になることによる心理面への影響を懸念する。友達と群れて遊び、仲間づくりすることを通して、社会性を学んでいくことの大切さは何物にも代えがたい。

- 「読解力の向上」の成果として「児童生徒自身が文章を要約したり、考え方を説明する力がついてきている。」と記載されている。自分の考えをアウトプットするにはインプットが大事であるが、言葉力の育成を図る学習活動の取組によって読解力が高まり、自己の考え方を表現できるといった成果が徐々に表れてきていると感じる。
- 「基礎基本の徹底」について、授業以外での学習タイムが市内の小中学校で実施されており、勉強が苦手な子やフォローが必要な子のために、非常に有効な事業である。
- 「ALT・STを活用した外国語の授業」で、ALTとSTの存在は、担任の先生にとっても子どもたちにとっても大きなサポートになっている。英語力は、小さい時から英語に親しんでいる子と学校で始めて習う子では大きな差があるが、STが授業に関わることによって、充実したフォローにつながっている。
- 「COOL AWAJI」は、ALTとSTが作成した外国語活動のワークシート付きの動画だが、地域に即した話題が短い時間で編集されており、非常にわかりやすい教材であると感じた。また淡路島の魅力を知るとともに観光PRにもつながる内容である。今後も活用していただきたい。
- 世間では「少数派は変だ」という考え方を持っている人がまだまだ多い。小学校から多様な性について理解を深めることで、マイノリティ（少数派）に対する偏見に疑問を持つ心を養ってほしいと願う。
- 教職員自身が、赴任した校区のことを積極的に学ぼうとしている意識があるかどうかで、「環境体験学習」の内容が例年どおりなだけのものになるか、充実したものになるか大きな差が生じる。教職員が積極的に地域を知ろうとする取組を推進されたい。
- 「体力アップサポート事業」は、中学校の保健体育科教員を小学校へ派遣する事業であるが、子どもたちにとっても有意義な刺激を受ける機会となっている。体育の授業のみならず、他の教科でも実施を検討いただきたい。
- 食べることは健全な体と心を作る基本となる。身近ですぐに食べ物が手に入り、核家族化が進む現在、昔ながらの家庭の味を知らない子どもが増えている。一方、学校給食で栄養を摂っている貧困家庭の子どもおり、学校給食が大きな役割を果たしているといえる。
「食育推進事業」では、地場産食材について学び、生産者の思いをくみ取る教育を大切にしている。忙しい保護者が増える中、子どもたちが自分で料理を作れるようになったり、合成着色料や遺伝子組み換え食品などの知識を正しく持ち、自分が口に入れる食材を知る教育が必要である。
- 支援が必要な子どもが年々増加傾向にある中、特別支援教育は、担任だけではなく全体で関わっていくべき大切な教育であるという認識を改めて学校へ定着させていかなければならない。

- 「授業のユニバーサルデザイン化」により、支援が必要な子どもだけでなく、誰もがわかりやすい授業づくりが期待できる。授業を苦痛に思っている子どもたちが楽しさを感じられるよう、推進していただきたい。
- 「中高連携シートの活用」は、本人の特性等を中学校から高等学校へ引き継ぐものであるが、文書のみでは明確に伝わらないことでも、口頭で伝えることでイメージを持って対応ができる。子どもたちが新しい環境へスムーズになじむことができるよう、口頭による情報伝達も続けていただきたい。
- 教職員が、職場でのストレスを誰にも打ち明けられず一人で抱え込んでしまうことのないよう、スクールカウンセラーの確保及び教職員への活用や、各学校からの情報の集約により早期対応に繋げられる体制の構築を図られたい。
- 「教職員の勤務の適正化」については、マンパワーが必要であるが、そのためには予算と人員確保が不可欠である。厳しい状況であると思うが、確保へ向けて強く働きかけられたい。
- スクール・サポート・スタッフは、教職員の身近にいて、仕事をサポートする非常に重要な役割を担っている。今後も各学校に配置をし、教職員の働き方改革の一環として活躍いただきたい。
- 学校現場が非常に忙しく厳しい状況にある中、「南あわじ市サテライト講座」等を活用しながら、管理職の後継者育成に配慮いただきたい。

社会教育について

- アフタースクールは、放課後健全育成事業（学童保育）と放課後子ども教室事業を融合させた市独自の事業であるが、まさに「学ぶ楽しさ日本一」の取組である。徐々に活動校区を広げているが、できるだけ早く市内全体で事業が実施されることを期待する。
なお、アフタースクール、放課後健全育成事業（学童保育）、放課後子ども教室事業は内容が似ているため、事業の目的や違いを保護者や教職員へわかりやすく周知していく必要がある。
- 「夢プロジェクト」は、子どもだけでなく、大人も夢の膨らむ事業であるため、今後もぜひ継続いただきたい。
- 啓発冊子「気づきタウン」は、人権に関する正しい理解と認識を深める冊子であるが、イラストも満載で大変見やすく作られており、子どもだけでなく大人に対しても、理解の促進を図る内容となっている。今後も教育行政の多方面において、手に取って見てもらえるような見やすい冊子やチラシの作成をお願いしたい。
- 学校施設の開放事業に関連して、学校に保管されている社会教育関係の備品について一覧表を作成し、適切に管理するよう検討いただきたい。

第3期南あわじ市教育振興基本計画（令和2年度～令和6年度）の基本理念「学ぶ楽しさ日本一 ～夢と志を持ち、ふるさと南あわじ市の未来を創る人づくり～」を反映し、充実した内容になっている。

教育行政においては不易と流行を見極め、「故きを温ね新しきを知る」ことが必要である。近年は働き方改革等でWeb会議やリモートワークなどが注目され、各方面で導入が進んでいる。学校現場においても教育のICT化が加速し、ICT教育のメリットを取り入れる一方で、人と人との関りや対話を大切にした教育の重要性を再認識する時期ではないだろうか。

新型コロナウイルス感染症の拡大から2年が経過し、生活スタイルが徐々に変化する中で、「人々の心の中が見えますか」と問われた時、見えにくい状況であると言わざるをえない。

教育においても、コロナ禍の今、非常に大きな変革期にあると考える。

「子どもたちの心の中が見えますか」を常に問いかけながら、子どもたちの健やかな成長と共にさらなる教育の発展を願ってやまない。

